令和５年度　事業報告書

社会福祉法人　川福会

目　次

法　人　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

特別養護老人ホーム福寿苑・・・・・・・・・・・・・・17

特別養護老人ホームみのわの里・・・・・・・・・・・・26

特別養護老人ホーム布市福寿苑・真寿庵・・・・・・・40

介護老人保健施設枚岡の里・・・・・・・・・・・・・・52

介護老人保健施設長田の里・・・・・・・・・・・・・・57

ケアハウスひらおか・・・・・・・・・・・・・・・・・65

ケアハウス喜里川・・・・・・・・・・・・・・・・・・68

小規模多機能ホームごりょうの家・・・・・・・・・・73

介護老人保健施設すいれん・・・・・・・・・・・・・・77

専門会議活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・87

社会福祉法人川福会　令和５年度　事業報告

１．　ガバナンスのさらなる強化

（１）ガバナンス強化に向けた対応検討

令和４年度下半期に策定した、職員倫理綱領、職員倫理規程、虐待防止指針、ハラスメント防止方針、ハラスメント防止規程に基づき、法人の組織風土改善と併せて施策を講じました。

①不適切介護根絶通達発出

②不適切介護の職員アンケート結果に対する改善策を施設毎に策定

③各施設の虐待防止対応策を法人が進捗管理

④人事考課項目に不適切介護根絶等を追加する等、項目を刷新

⑤毎年の利用者満足度アンケートに不適切介護有無の質問を複数設置

⑥ハラスメント相談窓口を設置し、相談内容の実態把握、対応を適宜行う。

≪規程の新設・改定≫

①４月１６日付　フレックスタイムの運用に関する細則

・条項のずれの修正及び清算期間内の休日数を就業規則と整合

②７月２０日付　基本給・諸手当の支給に関する内規を改定

・資格手当の時効を含めた遡及申請の条項追加

・扶養手当の不支給要件と時効を含めた遡及申請の条項の追加及び所得・年齢要件を満たさなくなった場合の不支給条項を新設

・給与形態の条項整理と給与規程に基づく控除の整理

③８月１日付　ボランティア受入規程を新設

・当法人が運営する施設におけるボランティアの受入れにより、施設の利用者の生活並びに施設と地域の交流の充実を図ることを目的として、受入れ及び活動等について必要な事項を定めた。

④９月１日　パート就業規則

・正職員への転換（年齢要件削除・転換時期の明記等）

≪労使協定≫

・保管方法を見直すとともに、締結済の労使協定を見直し、６月に再締結。

「通勤手当前払い」「オンコール体制の運用」「育児・介護休業等」

「所定・法定時間外労働及び休日労働の実労働時間確定」

「フレックスタイム制」「賃金控除」「年次有給休暇の時間単位付与」

また開示については、施設だけでなく法人ホームページ（職員専用）にも開示。

（２）内部監査の実施、是正、ありかたの再検討

法人の全事業所において内部監査を実施しました。

人員の配置状況や加算等の算定要件の確認、書類の整備状況及び実施記録の有無等を確認し、法令遵守の徹底（介護保険等）に努めました。

また、当年度の内部監査では新たな確認事項として、適切な労務管理が実施なされているか関連の書類確認や時間外労働に関する状況確認等を実施しました。

時間外労働や夜勤・オンコール対応などが特定の事業所や個人に集中しないよう改善指導等行っております。

内部監査については令和３年１月の開始より３年が経過し、各事業所における大きな指摘・指導事項は減少しております。

改善の指導事項が無い事業も増えてきております。

この傾向が継続できるよう引き続き内部監査を実施し、更なる法人の健全な運営に資するよう努めてまいります。

（３）会計監査人指摘事項の対応

施設設備整備積立金、同積立資産５００万円を取り崩しましたが、それに対応する支出が結果的に４００万円余で済んでいることについて指摘があり、１００万円を施設設備整備積立金、同積立資産に戻入れ処理しました。これに伴い、当初予算で施設設備整備積立資産取崩収入に５００万円を計上していましたが、補正予算において１００万円減少させ、４００万円の同取崩収入に修正しました。

施設事務において立替金の消し込みに誤りがあったことについて指摘があり今後、同様の誤りが発生しないよう確認の徹底を図りました。

その他、講師謝礼の源泉徴収漏れ、仕訳の勘定科目修正など、会計処理に関する指摘事項について全て対応ずみとなっております。

２．　経営基盤の安定

（１）全国平均の稼働率・単価を実現

法人の令和５年度決算と、福祉医療機構の経営分析参考指標による全国平均との対比を行いました。

各事業においては令和５年度の実績について、全国平均との損益比較、稼働率、利用者１人１日当たり収益との対比（別添１・２参照）を行いました。

１人当たりの単価を向上させるため体制を整備し、加算取得等を行いましたが、全国平均と差額が大きい事業については、平均介護度の向上や加算取得等について令和６年度にあらためて検討してまいります。

≪令和５年度加算取得≫

・科学的介護推進連携加算Ⅰ（福寿苑・みのわの里・布市福寿苑）
・個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱ（福寿苑・みのわの里・布市福寿苑）
・口腔衛生管理加算Ⅱ（福寿苑・みのわの里・布市福寿苑）
・療養食加算（福寿苑・みのわの里・布市福寿苑）
・精神科医療養指導加算算（福寿苑・みのわの里・布市福寿苑）
・科学的介護推進連携加算Ⅱ（枚岡の里）
・所定疾患施設療養費Ⅱ（枚岡の里）
・経口維持加算Ⅱ（長田の里）
・褥瘡マネジメント加算Ⅰ・Ⅱ（枚岡の里・長田の里）
・入退所前連携加算Ⅱ（枚岡の里・長田の里・すいれん）
・入所前後訪問指導加算Ⅰ（枚岡の里・長田の里・すいれん）
・退所時情報提供加算（枚岡の里・長田の里・すいれん）
・リハマネ計画書情報加算（枚岡の里）
・在宅復帰・在宅療養支援加算Ⅰ（枚岡の里・長田の里・すいれん）
・科学的介護推進連携加算（みのわデイ・布市デイ）
・生活機能向上連携加算（布市デイ）
・口腔栄養スクリーニング加算Ⅰ（みのわデイ・布市デイ・長田デイケア）
・短期集中個別リハビリテーション実施加算（長田デイケア）
・運動機能向上加算（予防）（長田デイケア・すいれんデイケア）
・入浴介助加算Ⅱ（すいれんデイケア）

≪通所事業の機器導入≫

①喜里川・福寿苑　　リハサポ
②長田の里　　リハビリＶＲキット
③すいれん　　脳体力トレーナーＣｏｇ　Ｅｖｏ

（２）既存併設事業の今後のありかたの検討

≪みのわの里訪問介護≫

訪問介護を統合した後、課題の実態把握、施設と協議を行い、下記対応を行いました。

①統合による情報共有や連携強化のためタブレット導入
②ズームやメールアプリをインストールし、サ責からの指示、サ責への報告、会議開催、研修開催を円滑化し、業務負担を改善（職員説明会も開催）
③特定事業所加算を取得するための準備（１１月から算定開始）
④高齢、障害のサ責、登録ヘルパーによる担当を整理し、労働時間を標準化

≪喜里川総合事業≫

喜里川短時間デイについて、職員配置困難、利用者極少数のため、１１月３０日付で事業を廃止しました。

（３）令和３年・令和４年度課題への対応

物価高騰の継続により事業費・事務費について厳しい状況になる事は予測され、引き続き、経費削減対策を講じていきます。

①預金口座の統廃合
②プラスチック手袋の仕入先の変更
③職員との入退職日調整による社会保険料の削減
④老健による空調機器経費削減モデル実施
（エアコンの室外機に制御用のコンピューターを設置することでＡＩにより効率の良い自動運転とデマンド管理を行う）
⑤宿直者の最低賃金減額特例許可による削減
⑥事務消耗品購入先の変更・商品統一
⑦各施設の剥離、ワックス等の回数、箇所整理、契約変更

３．　地域共生社会の実現に向けて

（１）法人としての機能的相談窓口の設置検討

東大阪市民ふれあい祭り（５月１４日）鶴見区民まつり（１０月１日）において介護相談窓口を設置、身近な社会資源として広報活動を実施しました。

また、２月１日から長田の里とすいれんの２施設において、地域の方が身近な場所で介護や生活に関すること等を相談できるよう「介護よろず相談窓口」を設置し、地域への広報を実施しました。

（２）実施している地域公益活動の再検討

福寿苑において、コロナ禍以前に実施していた地域高齢者等の買い物支援の「買い物ツアー」を地域の方と再検討し、１月から買い物支援を再開しました。

地域高齢者のサロンでの交流の場を通じて、参加者とボランティアグループと改めてサロンの内容と新たなボランティア依頼等を検討しました。

ごりょうの家においては、地元の自治会や地域包括支援センターからの要望もあり、認知症カフェを再開し、みのわの里においては、地元の祭り再開へ向けての準備協力を行いました。

布市福寿苑においては、地元商店街からの要望に応えキッズサポーター養成講座開催しました。

４．　職員の働き方改革と育成

（１）適正労務管理の理解促進、実態把握とその是正

管理職対象にアンケートによる労務管理の実態把握を実施しました。

労務管理システムの機能が最大限活用できていない、運用上の課題があるアンケート結果となりました。

・正職員の１日の実労働時間が７時間３０分であり、システム仕様上は８時間となっているため、休憩時間や法定内外残業の計算が煩雑。

・勤務形態が１９形態と多く、また１９形態それぞれに、午前休み、午後休み（有給処理含む）が連動するため、システム上の勤務形態が膨大。

・１分単位の残業支給において、職員からの申請手続きが適宜行われていないことがあり、エラーによる事後の実労働の確認が頻発する。

・システム運用に、デジタルとアナログ（残業紙申請）が共存している。
残業は紙の書式１号、２号を使用し、申請代行者が申請代行する作業が生じているので、申告後の入力はその事象に該当する個人が入力するように申請方法を改善することが必要。

対策として、労務事務員と労務管理システムを主に使用する管理職にあらためてアンケートを実施し、有給や残業の電子申請、実労働確認の機能改善、承認者・決裁者機能の改善につなげていきます。

労働法務の理解促進は実施できておらず、令和６年度に対応します。

一方、内部監査実施時に、適正な労務管理が行えているか確認し、書類上の不備等の改善指示の他、時間外労働等が決まった集団・個人へ集中している傾向が見られる等の問題について実態把握とその是正について指導を行いました。

（２）さらなる業務改善の実施、見える化、効果測定

令和３年度下半期以降の業務改善施策効果測定一覧（別添３参照）を作成しました。

その業務改善内容の実施における成果、課題を各施設にヒアリングを行い、下半期にその測定を実施した結果、そのほとんどの項目に考課がみられました。

（３）令和３年・令和４年度課題への対応

就業規則第３６条の１９の勤務形態について、施設と必要な勤務形態について協議を行い、１３の勤務形態に統合しました。

人権尊重の対応ついては「１．ガバナンスのさらなる強化」に記載しています。

5．　ＢＰＲ計画の推進

（1）ブルーオーシャンシステム運用の完遂

ワイズマン・ＢＯで使用するデータについて各施設に相違があったため、ＢＯ使用施設と協議を行い、下記のＢＯ帳票使用について統一しました。

【ケアマネ】　・包括ケアケアチェック表　・施設ケアプラン第１表から第５表
・LIFE 自立支援促進に関する評価・支援計画書（加算取得時）
・排泄の状態に関するスクリーニング・支援計画書（加算取得時）
・口腔衛生管理実施記録（[L] 口腔衛生管理加算様式を使用）
・「アセスメント」「モニタリング」

【相談員】　・フェースシート　・LIFE 口腔衛生管理加算様式（加算取得時）
・LIFE 科学的介護推進に関する評価（加算取得時）　・被保険者証

【療法士】　・集団リハ実施記録　・長谷川式簡易知能評価スケール
・リハビリテーション実施計画書（ライフ加算取得）
・リハビリ帳票　[L]個別機能訓練計画書（加算取得時と併用）
・アセスメント票（生活機能チェックシート含む）
・２４H総合ワークシート（機能訓練実施記録・カンファレンス）

【介護士】　・２４H総合ワークシート機能訓練実施記録　・事故報告書
・食事・水分・排泄・入浴チェック表　・苦情（トラブル）報告書

【栄養士】　・栄養ケア計画書　・経口維持計画書（加算取得時）
・口腔衛生管理加算様式（加算取得時）

【看護師】　・２４H総合ワークシート（健康医療・健康管理）

また、ＢＯシステムにおける各事業の認証状況、使用状況等の確認を行いました。

（2）ＩＴ管理・セキュリティーの再検討・改善

事業所統合に伴う介護ソフトの廃止や、勤怠管理システム導入、ｅ－Ｇｏｖ等の電子申請等の新たに導入したソフトやシステム等に対応するため、その管理体制を再検討し、ＩＴ管理規程を３月に改定して管理体制を改善しました。

法人が使用するソフトが１３から増減し１８となったため、新たに増えたソフト毎のＩＤ・パスワード・電子証明管理や再設定、２重認証、アクセス制限等を規定しました。

（3）令和３年・令和４年度課題への対応

≪記録の電子データ移行≫

特養・老健・ＣＨ・小多機能の事業毎で使用している記録を整理し、紙から電子データに移行する書式について協議を行っています。

≪特養≫

職種	総帳票数	データ移行数
介護士	３４	２５
看護師	２２	１１
介護支援専門員	１９	８
相談員	５９	２３
管理栄養士	４０	３３
機能訓練指導員	４	３

≪ワイズマンデータの紙排出削減≫

ワイズマンを使用した、各事業所の提供票、実績報告等を電子化し、紙を削減、業務効率の改善を図りました。

①居宅・包括→法人外事業所（提供票メール）

②法人外事業所→居宅・包括（実績返信メール）

③居宅・包括→自施設併設事業所（提供票ワイズマン送信）

④自施設併設事業所→居宅・包括（実績ワイズマン送信）

⑤居宅・包括→法人内の他施設事業所（提供票ワイズマン送信）

⑥法人内の他施設事業所→居宅・包括（実績ワイズマン送信）

上記対応について、一部事業所にて対応ができていないため、今後課題整理を行い、電子化をさらに進めます。

≪クラウドサービス活用による業務改善≫

マイクロソフトチームスを使用しクラウド上に各施設の下記報告書類を新たにアップすることで、本部のとりまとめ作業を無くし、業務改善を図りました。

①職員数推移表・離職率計算書

②介護職員応募・採用・不採用一覧表

③職員配置（法定配置）一覧表

④虐待防止進捗管理表

⑤第３者評価水平展開進捗管理表

６．　感染症対策及び災害対策

（１）感染症対応ＢＣＰの策定の見直し

感染症対策ＢＣＰについて、現在策定されているＢＣＰの見直しを行いました。

①保健所訪問による指導内容をもとにＢＣＰを見直す（一部施設）

②感染対応のゾーニングの模擬研修の実施（一部施設）

③新型コロナが５類移行したことにより、その５類対応とその他感染症（インフル・ノロ等）を連結するＢＣＰを策定（一部施設）

（２）災害対応ＢＣＰに基づく防災訓練の実施

災害対応ＢＣＰについて、現在策定されているＢＣＰの見直しを行いました。

①施設の立地による災害種別を選定

②ＢＣＰ作成セミナーや防災リーダー養成等研修受講の受講や非常時災害時における食事提供についての研修実施（一部施設）

③ＢＣＰの対応事業を施設サービスだけでなく在宅サービスにも拡充

④災害対応のＢＣＰに基づく訓練実施

実施施設	訓練実施日
福寿苑	３月２３日
みのわの里	２月２１日
布市福寿苑	３月６日
枚岡の里	５月１７日・３月２３日
ひらおか	３月２３日
喜里川	３月２５日

⑤感染症対応のＢＣＰに基づく訓練実施

実施施設	訓練実施日
福寿苑	４月２７日・１２月１～１５日
みのわの里	９月２７日
布市福寿苑	１０月１８日
枚岡の里	７月５日・１２月２０日
すいれん	６月１２～１７日・９月１１～１６日
ケアハウス喜里川	１１月７日

（３）令和３年・令和４年度課題への対応

非常災害に対応する訓練の実施において、課題である地域住民の参加を得ることが難しく、ほとんどの拠点施設において地域と連携（住民参加や近隣高齢者等）した訓練実施には至っていないのが現状となっております。

令和５年度は、令和６年３月に布市福寿苑において自然災害（地震）に対応する訓練を地域住民と実施しております。

７．　新・続３か年計画からの継続計画

（１）利用者処遇改善の全施設への展開

第３者評価の受審結果をもとに、特養施設長改善の優先順位が高いと考えられる２０項目について各施設長と協議しました。

各施設の指摘内容及びその改善策を各施設が把握できるように明示、特養以外のすべての施設にその改善策を展開し、法人でその進捗を管理しています。

（２）人事考課規程・評価基準見直し

人事考課規程の見直しを行い、１０月から人事考課規程の改定と考課項目の刷新、目標管理との区別を実施しました。

≪人事考課規程改定≫（１０月１日付）

①人事考課除外対象者を明示・異動後の人事考課始期、使用シートを規定

②２号俸昇給期間を終えた１号俸昇給の職員の昇給区分を規定

③昇格はＳ区分結果が複数回必要、昇格までにＳ区分取得の場合は３号俸昇給

④人事考課と目標管理を区別するため一部条項を削除

⑤考課シートを刷新したことにより、評価点の計算方法を刷新
実績素点、ウェイトを廃止

⑥フィードバックミーティングに職員のストレスケアを明示

⑦目標管理の実施時期、目標設定の例示、面談方法について整理

⑧人事考課の問題点を現場目線で抽出し、その措置を講じることを規定

≪人事考課項目の刷新≫

①考課項目を、職務別考課シートから等級統一項目、等級別項目に刷新

②当前の服務規律の考課ではなく、職員倫理や不適切介護の根絶、労務管理の徹底等、法人が力を入れるべきポイントに絞り作成

③２等級から４等級はフレックス適用とフレックス適用外を作成、１等級はフレックス適用外を作成し、数十あった考課シートを計７シートに変更

④考課シートの配点もベースは０点から４点の５段階とし、柔軟な考え方のもと、必ずしも５段階の配点とはせず、項目ごとに配点を策定

（３）令和３年・令和４年度課題への対応

第三者評価の受審施設以外の自己評価は、未実施となりました。

令和６年度に特養にて第３者評価を受審し、その審査項目において自己評価を実施します。

別添１

社会福祉法人川福会　損益における全国平均との比較一覧表　その１

（参考：独立行政法人福祉医療機構　令和４年度決算分経営分析参考指標）

区分					全国平均 令和4年度	法人 令和5年度	差引
１法人当たり従事者数（常勤換算数）				人	119.9	523.5	403.6
収支の状況	収益	総収益構成比	サービス活動収益	%	96.4	96.5	0.1
			サービス活動外収益	%	1.0	0.7	-0.3
			特別収益	%	2.6	2.8	0.2
		サービス活動収益構成比	介護保険事業収益	%	50.7	93.6	42.9
			老人福祉事業収益	%	2.7	5.2	2.5
			児童福祉事業収益	%	2.4		-2.4
			保育事業収益	%	22.1		-22.1
			就労支援事業収益	%	1.0		-1.0
			障害福祉サービス等事業収益	%	15.4	0.8	-14.6
			生活保護事業収益	%	0.5		-0.5
			医療事業収益	%	3.7	0.4	-3.3
			その他収益	%	1.5	0.0	-1.5
	費用	サービス活動収益に対するサービス活動費用の割合	人件費	%	67.3	67.6	0.3
			経費	%	25.0	25.8	0.8
			事業費	%	14.2	14.9	0.7
			事務費	%	10.8	10.9	0.1
			減価償却費	%	4.8	6.3	1.5
			その他	%	1.2	0.2	-1.0
			計	%	98.3	99.9	1.6
サービス活動収益対サービス活動増減差額比率				%	1.7	0.1	-1.6
経常収益対経常増減差額比率				%	1.9	0.5	-1.4
労働分配率				%	95.8	99.5	3.7
経常収益対支払利息率				%	0.4	0	-0.4
従事者１人当たりサービス活動収益				円	6,315,000	6,868,501	553,501
付加価値額				円	531,876,400	2,442,428,517	1,910,552,117
労働生産性				円	4,436,000	4,665,575	229,575
従事者１人当たり人件費				円	4,251,000	4,641,010	390,010

※法人令和5年度「その他収益」は0.01%のため、0%表記

※従事者１人当たりサービス活動収益（従事者１人当たりどの程度のサービス活動収益を得ているかによって効率を判断する指標）

算式：サービス活動収益3,595,660,224円÷従事者数523.5人

※労働生産性（従事者１人がどの程度の付加価値を生み出したかを示す指標。値が高いほど、各々の従事者が効率よく価値を生み出し、円滑な運営管理が行われているといえる）

算式：付加価値額（サービス活動収益3,595,660,224円－（事業費536,094,297円＋事務費390,492,813円＋減価償却費326,644,204円＋国庫補助金等特別積立金取崩額△99,999,607円＋徴収不能額0円）÷従事者数523.5人

※労働分配率（付加価値が人件費にどの程度分配されているかを判断する指標。値が低いほど増減差額の割合は高まる）

算式：人件費2,429,568,803円÷付加価値額2,442,428,517円×100

別添2

社会福祉法人川福会　損益における全国平均との比較一覧表　その２

（参考：独立行政法人福祉医療機構　令和４年度決算分経営分析参考指標）

拠点区分	サービス区分	稼働率・収益	項　目	全国平均 令和4年度	法人 令和4年度	法人 令和5年度
福寿苑	特別養護老人ホーム	稼働率	稼働率（%）	92.7	95.2	93.7
			全国平均との差（%）	－	2.5	1.0
	短期入所生活介護	稼働率	稼働率（%）	77.8	97.9	100.4
			全国平均との差（%）	－	20.1	22.6
	特養＋短期	サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	12,787	12,571	12,187
			全国平均との差（円）	－	-216	-600
	通所介護	稼働率	稼働率（%）	66.5	60.9	64.4
			全国平均との差（%）	－	-5.6	-2.1
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	9,419	7,278	7,744
			全国平均との差（円）	－	-2,141	-1,675
	認知症対応型通所介護	稼働率	稼働率（%）	62.3	58.0	59.9
			全国平均との差（%）	－	-4.3	-2.4
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	13,390	12,353	12,336
			全国平均との差（円）	－	-1,037	-1,054
みのわの里	特別養護老人ホーム	稼働率	稼働率（%）	92.7	94.8	92.8
			全国平均との差（%）	－	2.1	0.1
	短期入所生活介護	稼働率	稼働率（%）	77.8	89.2	95.8
			全国平均との差（%）	－	11.4	18.0
	特養＋短期	サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	12,787	12,776	12,404
			全国平均との差（円）	－	-11	-383
	通所介護	稼働率	稼働率（%）	66.5	74.2	73.7
			全国平均との差（%）	－	7.7	7.2
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	9,419	9,173	9,065
			全国平均との差（円）	－	-246	-354
	認知症対応型通所介護	稼働率	稼働率（%）	62.3	57.2	50.3
			全国平均との差（%）	－	-5.1	-12.0
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	13,390	12,731	12,791
			全国平均との差（円）	－	-659	-599
	訪問介護	訪問回数	1月当たり訪問回数（回）	819.4	2,272.6	1,342.9
			全国平均との差（回）	－	1453.2	523.5
		サービス活動収益	訪問1回当たり収益（円）	4,199	3,490	4,410
			全国平均との差（円）	－	-709	211
布市福寿苑	特別養護老人ホーム	稼働率	稼働率（%）	92.7	93.6	87.3
			全国平均との差（%）	－	0.9	-5.4
	短期入所生活介護	稼働率	稼働率（%）	77.8	68.1	72.4
			全国平均との差（%）	－	-9.7	-5.4
	特養＋短期	サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	12,787	12,867	12,433
			全国平均との差（円）	－	80	-354
	通所介護	稼働率	稼働率（%）	66.5	69.5	73.4
			全国平均との差（%）	－	3.0	6.9
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	9,419	9,372	9,206
			全国平均との差（円）	－	-47	-213
	認知症対応型通所介護	稼働率	稼働率（%）	62.3	42.1	44.1
			全国平均との差（%）	－	-20.2	-18.2
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	13,390	12,281	12,213
			全国平均との差（円）	－	-1,109	-1,177
	グループホーム	稼働率	稼働率（%）	94.7	96.7	98.4
			全国平均との差（%）	－	2.0	3.7
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	13,742	15,569	14,731
			全国平均との差（円）	－	1,827	989

枚岡の里	介護老人保健施設	稼働率	稼働率（%）	87.2	93.8	91.4
			全国平均との差（%）	—	6.6	4.2
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	14,009	13,577	13,671
			全国平均との差（円）	—	-432	-338
長田の里	介護老人保健施設	稼働率	稼働率（%）	87.2	93.6	90.9
			全国平均との差（%）	—	6.4	3.7
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	14,009	13,741	13,713
			全国平均との差（円）	—	-268	-296
	通所リハビリ	稼働率	稼働率（%）	59.2	68.0	66.3
			全国平均との差（%）	—	8.8	7.1
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	10,992	10,846	11,162
			全国平均との差（円）	—	-146	170
ひらおか	軽費老人ホーム	稼働率	稼働率（%）	92.5	92.7	94.2
			全国平均との差（%）	—	0.2	1.7
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	5,031	4,544	4,505
			全国平均との差（円）	—	-487	-526
喜里川	軽費老人ホーム	稼働率	稼働率（%）	92.5	86.7	88.4
			全国平均との差（%）	—	-5.8	-4.1
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	5,031	4,323	4,305
			全国平均との差（円）	—	-708	-726
	地域密着型通所介護	稼働率	稼働率（%）	71.4	37.0	53.8
			全国平均との差（%）	—	-34.4	-17.6
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	9,932	7,874	7,639
			全国平均との差（円）	—	-2,058	-2,293
ごりょうの家	小規模多機能型居宅介護	稼働率	稼働率（%）	81.4	62.4	62.1
			全国平均との差（%）	—	-19.0	-19.3
		サービス活動収益	登録者1人1月当たり収益（円）	244,469	252,321	263,565
			全国平均との差（円）	—	7,852	19,096
	認知症対応型通所介護	稼働率	稼働率（%）	62.3	50.2	55.2
			全国平均との差（%）	—	-12.1	-7.1
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	13,390	13,183	12,510
			全国平均との差（円）	—	-207	-880
すいれん	介護老人保健施設	稼働率	稼働率（%）	87.2	89.5	86.7
			全国平均との差（%）	—	2.3	-0.5
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	14,009	14,548	14,617
			全国平均との差（円）	—	539	608
	通所リハビリ	稼働率	稼働率（%）	59.2	59.3	65.8
			全国平均との差（%）	—	0.1	6.6
		サービス活動収益	利用者1人1日当たり収益（円）	10,992	11,804	11,501
			全国平均との差（円）	—	812	509

別添３　社会福祉法人 川福会　法人業務改善施策　考課測定一覧表（令和3年8月1日～令和6年3月31日）

【評価記載欄】　◎多大な効果があった　○効果があった　△効果があったか不明　×効果がなかった

実施年月		改善項目	改善内容
施設名	評価	評価の概要（効果があったこと、または課題）	
令和3年8月		業務執行理事３名体制から１名体制に変更	理事長、専務、常務の業務執行理事３人体制から理事長１人体制とし、意思決定の迅速化、役員報酬総額を削減
吉田	◎	決裁承認者の数が減り意思決定が迅速化、相談体制も一元化できた。また令和４年度には役員報酬総額を約2000万削減できた。	
令和3年9月		勤怠管理システム・勤務表作成システム導入	勤怠管理システムの導入で勤怠管理の適正化、勤務表作成システムの導入で勤務表の作成の負担軽減・迅速化
本部（増田）	◎	給与計算において、実労働確認書への反映が出来ない部分については手入力となり不便な部分もあるが、タイムカードの計算において、これまで全て手計算で行っていた部分がシステム抽出が可能になったことによりかなりの時間短縮となった。ごりょうの家の給与計算は管理統括部で行っており、毎月タイムカードや有休票を現地まで回収しに行き、不備などがあれば再提出依頼をするなどの手間がかかっていた部分が改善された。また、クラウド上でタイムカードを確認する事が出来るので、労務担当者が感染症等で長期休暇した場合、代わりの者が現場に行かずともクラウド上ででタイムカードや有給休暇申請などをチェックし、給与計算資料を作成できるようになった。	
福寿苑	○	勤務状況の把握がしやすくなった。勤怠決済の承認について拠点ごとに違いがあると思うが決裁者を法人統一で決めてもよいと思う。勤務作成については能力にあわせた業務バランスなどみているため、作成shiftを最大限使用できていない。	
みのわの里	○	システム導入時の理解や作業時には時間を要しましたが、現在では、勤務表帳票をシステムに反映できるなど事務員の負担軽減と迅速化が実現されている。また、勤務管理についても、出退勤状況や残業等の申請や命令がシステムですぐに確認できることで、職員の勤務状況で違和感があれば確認できる。課題としましては、管理職が残業命令の入力等を行う作業が煩雑なことがある。	
布市福寿苑	○	タイムカードの作成からタイムカード内の勤務時間を手動で記載したり残業時間の計算もしていた。出勤日の変更も手動で記載、その後、エクセルに入力する等をしていたが、手作業の軽減や3重記入の削減等負担軽減・迅速化に繋がっている。	
枚岡の里	◎	勤怠管理システムを導入したことで出退勤状況や休暇申請の状況を適正に把握、管理が出来るようになった。また勤怠管理への意識が個々に高まり、残業時間が減少した。勤務表作成については大きな変化が無い。	
長田の里	○	残業状況など適宜確認ができるようになり、管理指導が行いやすくなった。また給与計算は迅速化している。一方で有給管理や常勤換算や勤務表作成においてはシステム機能を使いこなせていない状況が見受けられる。	
すいれん	○	勤怠管理システムの導入に伴い、PC上での管理確認を行える。以前に比べて職員も意識していると思う。勤務表作成は担当職員も徐々に操作等に慣れてきているが、大きく負担が軽減したかは定かではない。	
ひらおか	○	各職員が一日の業務内時間で役割分担を考え業務を行う事で、イレギュラーな事にも対応がしやすくなった。	
喜里川	○	勤務変更や集計業務が円滑に行えるようになった。職員の時間管理の意識が高まった。有休や残業申請について電子申請が行えていない。終業後５分超の申請について事務員チェックにより事後申請になるケースがある。	
ごりょうの家	○	勤怠管理システムを導入し、職員の勤怠の確認（特に過去）が容易にでき、迅速かつ職員の負担軽減に繋がっている。勤務表作成も容易になった。	
令和3年9月		クラウド上での定期報告書類提出・管理	Microsoft Teamsに入力用ファイルを設置。各施設がアクセスをして入力することで集計作業の削減。法人はいつでも閲覧して管理が可能
吉田	◎	各施設からの報告書類をパート職員を雇用してとりまとめしていたが、クラウド上での管理により、とりまとめ作業がなくなった。	
令和3年10月		執行役員の廃止	職員理事と執行役員の２重構造を廃止、執行役員報酬を削減
吉田	◎	執行役員会で理事会審議案の作成や施設長会議の伝達等、２重業務が多発していた。会議時間、移動時間、会議資料・議事録作成時間等を削減できた。	
令和3年12月		だいとうケアプランセンターをケアプランセンターすいれんに統合	赤字事業をすいれんに統合しケアマネジャー体制の充実を図る、すいれんにて特定事業所加算を取得
吉田	◎	だいとうケアプランセンターは正職、パート１名の配属だったため、相談体制も弱かった。すいれんに統合することで、職員の管理が行いやすくなり、かつ特定加算取得で年間400万円収益が向上した。	
令和4年1月		介護支援専門員がデマンド・ニーズの違いを理解したアセスメント実施	デマンドとニーズの違いを理解することで、ケアマネジャーから本当に必要な支援について提言する意識の構築
福寿苑	○	法人内で行っている事業を理解してご利用者の意思に基づいた支援を提言しスケールメリットを活かせているかについては情報共有も不足し十分でないと感じる。これは自施設でも独自のサービスの構築が十分い行えていないこともその一つであるため、他と同じようにではなく、ご利用者がこれまであたり前に行ってきた生活に目を向け活動できる拠点づくりをしている。	
みのわの里	△	ニーズとデマンドの違いについては各介護支援専門員に伝達し、特定事業所要件である週に1度の会議で利用者の情報共有を行って客観的意見を交わしている。課題として、各介護支援専門員がアセスメント実施時に行えているかは当人しか分からない部分がある。定期的に各介護支援専門員の担当ケースの事例検討を行うことで、サービスの内容と事業所選択のアセスメント状況を理解し合えると考える。	
布市福寿苑	○	ご利用者やご家族の意向を傾聴し,ケアマネジャーとしてご利用者を支援するプラン提案no指針（方向性）は足並みを揃えているが、ケアマネジャーによって提案力の差や依頼者の性格によってプラン内容が変わることがある。	
枚岡の里	○	利用者にニーズに特化していた状況から、アセスメントやプラン作成の際にそれを意識する事で、不必要なものなどの提言が少しずつできるようになっている。	
長田の里	○	管理職から居宅介護支援事業所管理者及び施設ケアマネへ伝達。各事業で意識統一を図ると共に管理職や上司によるOJTを実施することで専門職としてのスキルアップを目指す。一つの成果として老健では在宅復帰率向上が見られる。	
すいれん	△	居宅会議の中の事例検討を行う際に意見を共有し、必要な支援についても定期的に確認している。	
ごりょうの家	○	小多機は他のケアマネからの紹介時、デイは新規利用時には、担当者会議を行っている。その際、デマンド、ニーズの違いを理解することで、ケアマネに提案、相談する意識が高まった。	
令和4年2月		ラバーシーツの商品統一及び必要な利用者のみへの使用	利用者の１か月の尿漏れ等の統計をとり、褥瘡予防の観点からラバーシーツは必要な利用者のみに使用
福寿苑	◎	商品統一：限定的商品というこだわりがあったわけでない中、統一できたことは○。　必要な利用者に使用するに取組んだことは○ですが、今後当苑は導入は個人に必要なものであれば個人購入に変更していきたいと考えている。	
みのわの里	◎	特養入所者の不必要な方には使用してなかったが、褥瘡予防観点から再検討すると、さらに必要ない利用者がおられた。短期利用者には、基本的に使用していたが、の心身の状況によって使用有無の判断できるようになった。	
布市福寿苑	◎	ラバーシーツの必要なご利用者を検討して実施。R4-R3の１年間で△1,380,390円削減。R5-R4上半期は29,260円増加。引き続き使用数の見直しを行う。	
枚岡の里	○	見直しを行うことでラバーの消費量が減り、発注数が減少した。また使用者が減少したことで業務負担が軽減した。褥瘡予防の観点では見直し後から減少に至っておらず、成果が現れていない。	
長田の里	○	実施後効果は見られたが、徐々に増加傾向にある。入退所が多い老健において、入所後の見直しをしっかりと行わないと減少した使用量が直ぐに増加してしまうため見直し時期の徹底を行う。	
すいれん	△	以前より取り組んでいた内容であるため、すいれんとしては大きな違いは無いと思う。以前のラバーシーツに比べて滑りやすいため、ベッドメイキングの修正する頻度が増えている事は確認している。	
令和4年3月		特養・老健の1日における排泄介助（トイレ誘導随時）の時間軸を統一	夜中３時に排泄介助（おむつ交換）実施している施設が有り、利用者の睡眠を妨げているため、排泄介助の時間軸を統一
福寿苑	◎	以前から決められた時間軸の流れ継承で、特に検証をせずに来た背景がある。時間軸を統一したことは全体的な流れを見直すきっかけにもなり良かった。夜間の睡眠は妨げたくないが個別に尿量の多い方の対応はいる。必要な時に必要な排泄介助ができるような介助法を可能な範囲で見える化（自然な生理現象に基づく排泄介助）していきたい。	
みのわの里	◎	平成30年度（理事長が法人統括本部長・施設長の時）に業務改善プロジェクトチームを立ち上げ、平成31年3月に現在統一された時間軸でモデル的に開始し翌月の4月より開始。夕食後の排泄介助時間の変更、入所者の排尿量の把握によるパットの吸収量の使い分けにより、入所者の睡眠時間が保たれた。また、職員の仮眠時間（休憩時間）の確保が行えた。	
布市福寿苑	○	排泄介助の回数軽減が業務負担の軽減に繋がっている。課題は個人の排泄パターン含めたアセスメントや情報収集を行い尿漏れや便漏れによるご利用者の不快感や清潔保持、褥瘡等疾病の発症や重度にならないような支援と管理が必要。	
枚岡の里	○	日中のスケジュールに時間が生まれレクリエーションを毎日決まった時間に実施できるようになった。夜間中途覚醒するご利用者が減少した。一方、ご利用者の排泄量に応じてオムツ交換の回数を増やして対応していることがある。	
長田の里	◎	夜間の安眠の確保はできている。また一日の定時排泄介助回数が減少したことで職員の負担軽減にも繋がっている。	
すいれん	○	現状決められた時間での交換の実施は行い大きな問題にはなっていないが、ご利用者によっては追加の交換が必要になる事はある。	
令和4年3月		特養・老健の1日における食事の時間軸を統一	利用者の夕食開始時間・食事時間が施設によりばらつきがあるため、夕食の食事提供時間を９０分に拡大した上で時間軸を統一
福寿苑	◎	朝・夕の職員体制の少なさ「やらなければ精神の業務都合」から食事の開始時間（提供）が早まったと考えられ時間軸統一は良い結果であったと感じる。ただ時間軸の統一は良いと感じる一方で、当苑ではフロアごとに早出や遅出を配置している勤務体制でないので、食事のかかる時間（提供、喫食から終了までの時間）はかかり職員の負担はたいへんのが現状ではある。安全が求められる時間でもあるので、食べさせないといけない時間⇒食べたいから食事をお手伝いしますねに代わり、決められた提供時間前後1時間は個別の設定時間などに対応できる食事提供が可能となれば良いと考える。	
みのわの里	◎	平成30年度（理事長が法人統括本部長・施設長の時）に業務改善プロジェクトチームを立ち上げ、平成31年3月に現在統一された時間軸でモデル的に開始し翌月の4月より開始。給食委託会社と折衝し、最終下膳時間を15分延長することで食事提供時間、口腔ケア・着床介助にもゆとりが生まれた。	
布市福寿苑	○	実施してから現在まで継続してる。課題は夕食後の時間帯など慢性的な職員数の不足により、労働時間の超過や労働時間を気にして雑なケアになっていないか、介護事故に繋がらないか確認と管理が必要。	
枚岡の里	◎	食事開始時間の変更と共に職員の配置を変更。残業が発生した際は、残業時間が短縮し、職員にかかる負担軽減に繋がった。	
長田の里	◎	特に問題なく提供できている。	
すいれん	○	現状決められた時間帯での食事提供は行えている。	

令和4年4月		紙おむつ・パットの商品統一	紙オムツ・パットについて、納入業者を統一、使用する品物について、厚手や薄手、形状や給水量を検討して商品を統一
福寿苑	◎	商品に対する個別処遇に商品の種類で課題が沢山あるわけでないと思うので、法人内のスケールを活かした商品統一納品はよかったと思う。	
みのわの里	○	紙おむつ・パットにおいて複数の種類があったが、統一することで、改めて、紙おむつ・パットの性能（吸収量等）を理解し、一人一人の状況にあった物を提供することができた。統一後に、職員からの新たな商品について の意見はなく、入所者にも商品統一のデメリットも発生していない。	
布市福寿苑	◎	商品統一を実施。R5年度とR4年度の上半期はほぼ変わりないが、商品統一前のR5年度とR3年度の上半期の差額は△1,802,784円軽減した。	
牧岡の里	◎	これまでに使用していたものと使い勝手や吸水量に変化は感じられず、特に問題なく使用出来ている。	
長田の里	△	商品の変更による問題は見られていない。定時排泄回数が減少したことが影響しているのか、ビッグパットの使用量が増加している。利用者の個別性を考えたパット類の使用を検討する必要がある。	
すいれん	○	法人指定の紙オムツ等で対応出来ており、現時点での問題は聞いていない。	
令和4年5月		ケアフル布施居宅介護支援事業所を長田の里に統合	ケアフル布施のケアプランに特定事業所加算を付加
吉田	◎	だいとうケアプランセンターの統合と同じ。職員の管理が行いやすくなり、かつ特定加算取得で年間400万円収益が向上した。	
令和4年6月		法人の専門会議・専門委員会の廃止、各施設の委員会・会議の統一	法人において不必要、無くても体制に影響のない会議・委員会を廃止。施設において必置以外の会議を原則廃止
本部（増田）	◎	廃止した法人の専門会議や委員会で行っていた協議事項や情報共有は、本部主導で進め、メールやチームス活用、必要に応じての協議で支障はなく、定期的な会議出席や準備、議事録作成などの業務負担が軽減され時間や経費の節約につながってまた、本部でも毎月開催の本部会議を廃止し、会議で行っていた必要な情報の共有や伝達事項、意見交換は、事案発生時に口頭やメールで行っており支障はなく、施設と同様の効果がある。	
福寿苑	△	人員不足で会議が行われていない事業所もあり、廃止等で体制に影響及ぼず。残った会議は必置でありそれが理解されメリットあり。一方で話し合う時間も削減されたことでよりコミュニケーションが減少、活動項目を設けチームを組んでいる。	
みのわの里	○	法人の専門委員会及び専門会議については基本的に廃止して問題を感じていない。法人本部主体（理事長・本部長・副本部長）による、実態把握と指示によって、その部分が網羅されていると思う。施設での必要以外の会議を原則 廃止しての課題は、伝達事項を施設の朝礼や運営会議等での各部署の主担当に伝達および、各部署にメールで資料と会議録を配信しているが、職員全員が確認と把握が出来ていないことが見受けられる。	
布市福寿苑	○	委員会や会議に取られる労働時間は削減したので業務効率は進んでいる。課題は各委員会や会議の主担職員の情報収集や周知の負担、他部署や他事業所との協力意識が薄れている事なので、改善を目指す。	
牧岡の里	◎	廃止以降、大きな影響なし。指示や連絡、情報共有はこれまでと変わりなく出来ている。	
長田の里	○	委員会・会議が減少したことによる問題は特になし。会議等に伴い発生していた残業時間削減に繋がっている。	
すいれん	△	話し合いの場が少なくなる事で職員からの意見の集約等が出来なくなっている印象は受ける。必要時の会議の開催を行える様な環境づくりが現状課題となっている。	
ひらおか	○	会議に合わせてのシフト作成の必要が無くなった。課題としては栄養士間の情報共有が出来ないので、今後両ケアハウス会議時に栄養士にも参加してもらう。	
喜里川	○	サービス向上委員会は定期開催せず、必要時のみ産長が意見聴取、取りまとめ等を実施。施設については必置以外の会議はすべて廃止。必置委員会は職員会議と統合し同時開催。研修会はポイントを絞り短時間で開催。	
ごりょうの家	◎	施設内の各種委員会は必要最低限にした。私が委員長であった地域密着型連絡会も、定期開催は廃止し、随時開催とした。	
令和4年6月		各事業書類保存方法の統一	各事業の書類保存方法を法人で統一し、ペーパーレスを推進し、紙保存により経費、労力を削減
福寿苑	○	良かったと感じている。ただ、システム構築の更なる推進がペーパーレスを超えて働きやすさになると考える。給与明細の紙中止、勤怠システムの自己システム申請、チームスやラインワークスのような一方通行型で情報共有ツールの構築。	
みのわの里	○	施設サービスにおいて、主にチェックシート関係（排泄・服薬等）に関して見やすさや即時の共有するため、紙を活用している。現在、帳票の協議を行っており、介護記録システムの活を用でデータ保存と各施設の統一が行えるの ではないかとの意見がある。それについては、タブレットパソコンを増やすことと更なる使いこなしが必要。その他の事業は、署名捺印要する書類以外は、介護記録システムとエクセル等で保存を心がけ実施。	
布市福寿苑	○	各事業所の紙保存からデーター保存の見直しを行い、見直し前のR3年度とのR5年度との比較では、上半期△38,572円削減した。	
牧岡の里	○	ペーパーレス化により経費・労力が削減されただけでなく、管理状況が把握しやすくなった。	
長田の里	○	保存方法を極力データ化することで検討する。不必要な印刷・ファイル化を廃止することでペーパレス化は進んでる。	
すいれん	○	すいれんではNASとメールを使用して可能な範囲でペーパーレス化を図っている。	
ひらおか	△	職種毎に紙保存からペーパーレス化に移行中　（課題）　入力を行う人数が限られている為様式の検討が必要	
喜里川	○	ケアハウス連絡会で、両ケアハウスの帳票全般（相談員・介護士・栄養士）について協議し、紙保存・データ保存の分別、紙からデータへの移行を図る。R4.9月作業完了。ペーパーレス化、業務効率の向上に繋がる。	
ごりょうの家	○	本部と相談し、小多機とデイの書類保存方法を統一し、ペーパーレスを推進し、カウンター料金の削減に努めた。	
令和4年6月		各事業記録方法の統一（２重記録根絶・記録簡素化）	介護記録システムの使用を推進し、日誌や２重記録を無くすと共に、定型の記録を記載方式から選択方式への転換等により業務負担を軽減
福寿苑	◎	記録とは文章で表現することを記録理解としていることから、文章で残すという名残がある。システムを活用する行動は良かったと感じているも十分使い方を理解していないし、調べようとしていない。システムは記録システム の使いやすさには簡単操作が十分ではないと感じるので、現場の行動にあわせたシステム（BOパッドの導入など）で行動しやすくなる記録方法を試験していきたいと考える。	
みのわの里	○	施設、通所介護の記録に関して、利用者個々の状況を記録するため記載方式。選択方式への転換はできていない。記録の入力の得手不得手が職員であり、記録業務に時間を要する職員がいる。令和5年4月から、訪問介護事業におい て、全ての職員に介護記録システム（すぐろくホーム）が入ったタブレットを配布して、記録の入力及び連絡ツールとしての活用やＬｉｎｅワークスの活用での研修実施できるようになり、記録簡素化が進んだ。	
布市福寿苑	○	令和4年度から取り組み、日誌や2重記録をなくして介護記録システムに移行した結果、介護現場だけではなく管理者やその他事業所との情報共有やその後の対応も取りやすくなった。	
牧岡の里	◎	ブルーオーシャンに記録を一本化することで2重記録がなくなっただけでなく、記録作成の中で選択方式が増え、作成時間が短縮・業務負担減・ペーパーレス化に繋がった。老健で統一した書式については、順次移行中。	
長田の里	○	進捗が遅れていたが徐々に整備されつつあり、作業効率向上が見られる。移行しきれていない部署もあるため早急に移行を完了させていく。	
すいれん	○	システムの導入は行っていないが、2重記録を無くす体制は行っている。記録関係の業務改善は行えているが、申し送りや連携の部分ではまだ課題となっている印象はある。	
ひらおか	—	特になし。	
喜里川	○	ケアハウス連絡会で、両ケアハウスの帳票全般（相談員・介護士・栄養士）について協議し、新設、変更（２枚帳票の１枚化等）、廃止についてまとめる。概ね統一化は図れたが、一部の帳票内容について見直し検討中。	
ごりょうの家	◎	小多機とデイの各記録の無駄（２重記録、介護システム使用、選択方式の採用など）を省き、業務負担を軽減した。	
令和4年6月		居宅介護支援・介護予防支援と対外事業所のメール対応への転換	サービス提供票を介護ソフトからPDFに変換し、サービス提供事業所宛にメール送信を行うことで、ペーパーレス化、業務負担の軽減
福寿苑	◎	PDF化して送信できているのでペーパーレスになっている。	
みのわの里	○	現在45事業所とメールでの送信を行い割合は約35%と増えている。課題として、メールの確認ミス（埋もれてしまい）が出ること、相手方事業者が複数の事業をしており、各事業にアドレスがない場合があり、郵送等での紙での提出 を求められる状況がある。併設の通所介護においては、介護記録システムの記録が実績に反映されるため、利用日の時間が分単位となるため実績が取り込めない。	
布市福寿苑	○	居宅は毎月提供票の送信はワイズマンからPDFにして62事業所、FAXは29事業所（R5.10.1現在）に実施。ペーパレス化は進んでいるが業務負担の軽減はケアマネのICT関係の活用方法の得手不得手により軽減の差が出ている。	
長田の里	△	移行が遅れている。１２月には対象を60事業所所以上まで進めていく。	
すいれん	△	メールでの対応が可能な事業所は少しづつ増えており、印刷を行う事は減ってきている。	
令和4年6月		各事業の事業日誌の廃止	看護日誌、介護日誌等、引き継ぎに必要な日誌については介護記録システムに入力
福寿苑	◎	日誌という考え方がご利用者の生活記録と認識している状況が強かったので、日報もシステムに入力して集約できるかたちに進んで良かったと感じる。	
みのわの里	◎	各事業の介護記録システムで日誌を作成できており、紙での管理しなくてよくなり、回覧（押印）の手間も省くことができた。	
布市福寿苑	○	特養の介護現場は介護記録システムへの移行に時間がかかったが実施した。その他の事業所や部署は直ぐに実施した。	
牧岡の里	○	日誌作成の時間が短縮され業務効率が上がった。日誌を廃止してから大きなトラブル等なく経過している。課題は過去を見直すには紙媒体（日誌が存在）の方が時間が早く適している。	
長田の里	○	日誌廃止は実施済。特に支障なし。	
すいれん	△	システムの導入は行っていないが、2重記録を無くす体制は行っている。記録関係の業務改善は行えているが、申し送りや連携の部分ではまだ課題となっている印象はある。	
ひらおか	△	ケアハウスには介護記録システムがないため、ケアハウス喜里川と用紙統一を行い簡素化に移行中。	
喜里川	○	相談員日誌、介護員日誌を廃止し、引継ぎに必要な項目のみを抽出した事業記録に変更。パソコン上の共有ファイルで運用。２重記録の廃止、情報共有の効率化に繋がる	
ごりょうの家	◎	業務日誌は紙媒体からデータ管理に移行した。	

令和4年10月		排泄用清拭タオルをリースからディスポ清拭に変更	各施設で使用する排泄用清拭の大部分を衛生面も考慮してディスポ清拭に変更
福寿苑	○	衛生面は使い捨てに変えて保持出来ている。排便時はディスポだけでは取り切れない為、布清拭は必要である。	
みのわの里	○	布の清拭タオルからディスポ清拭に変更当初は、排泄介助をする際に清拭の厚みが薄いことに違和感があると言った声が多かった。新型コロナ感染症での感染症対策時にディスポ清拭を使用することも後押しになった部分はあるが、リースからディスポ清拭への変更が推進出来ている。衛生面的に入所者、職員双方にメリットがある。	
布市福寿苑	○	リースからディスポタオルに変換した結果、R5年度とR4年度の上半期の差額は△460,955円削減となった。	
枚岡の里	◎	個包装になってることで衛生面が確保されるだけでなく、一定時間保温もキープ出来る点が良い。また大きさや厚みなども使い勝手よく、十分に清拭でき清潔が保持できる。	
長田の里	○	元々リースは使用しておらず。ディスポに変更することで衛生面は向上。コスト面では増加。	
すいれん	○	ディスポの仕様には徐々に慣れてきている印象である。コストカットに繋がった事と、感染症の際の対応については簡略化出来ているのではないかと考えている。	
令和4年10月		職員の年間休日数の改定	業務改善を推進し、令和4年10月16日付で就業規則を改定し、年間休日を104日から110日に増加
吉田	○	業務改善により不必要な業務をなくすことで職員処遇の向上につながった。一方で職員の休日が増えたことによる勤務調整の困難さが一部事業で増している。	
令和4年12月		通所系サービスの稼働率改善のための機器導入	福寿苑デイサービス・喜里川デイサービス：リハサポ導入
福寿苑	◎	個別プログラムに基づく、統一した機能訓練を実施できるようになり効率的になった。	
喜里川	◎	R4.11.1導入。利用者の増減を実人数で比較すると導入前（R4.9月）19名に対し現在（R5.9月）29名。上半期の稼働率で比較すると37.8%から48.3%に増加。機能訓練目的の利用者が増加し利用者の約9割がリハサポに参加。	
令和4年12月		職員代表の選出方法の一部変更及び様式の統一	労使協定を締結する各施設の職員代表の選出方法を策定し、議事録・立候補届・職員推薦書・職員代表同意書の様式を統一
吉田	◎	労働法令に即した職員代表の選出を行うこと、また各施設の管理職を含む職員の認識改善が行えた。	
令和5年1月		不適切介護根絶	全ての事業所の全職員を対象に不適切介護のアンケートを実施し、その結果に対する再発防止策を策定
本部（大内）	○	「虐待防止対応進捗管理」の定期作成により、不適切介護に対する各施設による対策実施内容や管理状況の確認を行い、適宜内容の確認や対応指示等を実施の他、研修実施の指示などにより再発防止に努めている。	
福寿苑	◎	個々がどのように感じたかは不明であるが、当苑は虐待が起こった施設であるという認識はおよそ１年を迎えようとする中、定期的な拠点取組を実施していく事とあわせて、法人でこの問題に意識を向ける機会をいただけるのはありがたいし、法人全体で継続することはサービスの質向上や安心して利用していただけるものにつながると感じる。	
みのわの里	○	全ての職員に、法人内施設での虐待事例や指針、アンケート結果を周知し、高齢者虐待研修（YouTube配信）実施してアンケートを作成し提出することで、再発防止に取り組んでいる。課題としては、アンケートには他の職員の声掛けや介護の仕方について意見はあるが、日頃からの不適切と思われることに関してお互いに伝え合えていない職場環境があると考える。	
布市福寿苑	○	法人実施の不適切ケアアンケートの結果を施設にて虐待防止委員会や身体拘束廃止会議、幹部会議で周知、その後人権研修や不適切ケア研修を実施し不適切ケアを行わない、見かけたら指摘が出来る風通しの良い環境整備に取り組んでいる。	
枚岡の里	○	虐待への意識が高まった。施設内で虐待をテーマに話しをする機会が増えた。虐待を未然に防ぐ、自施設で発生させないとい考えが強くなった。	
長田の里	△	アンケート結果から管理職面談の実施や主任以上の意識改革に取組んでいるが、令和５年度上半期においても接遇面での苦情が上がっているのが現状。引き続き根絶に向けて取組んでいく。	
すいれん	△	研修やグループワーク等を実施しているが、風土づくりがまだまだ不十分であると考えている。研修の実施も継続して行う事も必要だが、監視システムは時代の流れにおいても必要になってくると感じている。	
ひらおか	△	アンケート結果による個人面談を行い　web研修受講	
喜里川	○	虐待再発防止策を策定し、職員会議、身体拘束委員会、虐待防止委員会の中で、倫理綱領研修、身体拘束廃止研修、虐待防止研修等を開催。又、相談窓口を強化し、ハラスメント相談1件に対し速やかに対応。	
ごりょうの家	○	施設の全職員を対象に不適切介護のアンケートを実施し、その結果に対する再発防止、研修会を実施。虐待防止委員会を設置。	
令和5年3月		通所系サービスの稼働率改善のための機器導入	長田の里デイケア：リハビリVRキットRehaVR導入
長田の里	○	導入後、積極的に広報を行い、これを目的に体験・利用を希望される方もあり。利用中の使用率も高稼働を維持できている。導入前後３か月では稼働率は向上。しかし入院や施設入所が重なったこともあり、上半期は目標未達成。	
令和5年4月		通所系サービスの稼働率改善のための機器導入	すいれんデイケア：脳体力トレーナーCog Evo導入
すいれん	○	R5.4より導入し、現在13名の対象者が利用している。居宅等へのPRも行っており、リハビリメニューの強化のPRになっているのではないかと思う。引き続き実施とPRの継続は必要と思う。	
令和5年4月		モップ、フロアマットの商品統一	各施設で使用しているモップ、フロアマットの使用状況にばらつきがあるため、施設の建物の構造に配慮して商品の統一
福寿苑	◎	特に影響はなかった。	
みのわの里	○	リース業者と共に現状の使用状況を現地確認を行う。モップとフロアマットを減らしたが、現場から不足している等の声は上がっていない。使用物品の定期的確認の重要性が理解できる。	
布市福寿苑	◎	商品統一をした結果、R5年度とR4年度の上半期の差額は△57,550円削減となった。	
枚岡の里	◎	施設内の美化の状況や清潔は変わりなく維持出来ており、統一後も支障なし。	
長田の里	◎	設置個所の見直しを実施し、効果が見込めない箇所を廃止しコストカットを行う。特に問題なし。	
すいれん	○	フロアマットの数量を減らしたが、現状問題はない。今後、モップ関係は規模に対して少ないため、見直しは行う必要が出ると考えている。	
ひらおか	◎	設置場所の再確認を行い、使用頻度が少ない所を省いた事で2割削減になった。	
喜里川	◎	マット8枚、芳香ファン3台（市販芳香剤に変更）廃止により月11,655円の経費削減。	
ごりょうの家	◎	モップ、フロアマットの必要性を見直し、必要最低限のみに厳選した。	
令和5年4月		福寿苑・布市福寿苑・ケアフル布施の訪問介護をみのわの里に統合	サービス提供責任者の配置効率化と柔軟な訪問体制を構築、赤字事業（福寿苑・布市福寿苑・ケアフル布施訪問介護）をみのわの里に統合、特定加算算定
吉田	◎	赤字事業を統合することで、業務の効率化、労働時間の標準化、特定事業所加算の取得により令和5年度では約200万の収益改善が見込める。	
令和5年4月		第３者評価水平展開改善計画策定	特養の第３者評価対比表を作成し、全ての施設でｂ評価以上を目指し、Ｃ評価の項目については改善策を策定し、各施設に水平展開
吉田	△	現時点で第3者評価項目20項目の改善対応は行ったが、その結果がでるのは令和6年度以降の第3者評価の受診結果による。	
令和5年5月		労務管理の徹底	各施設の職員の始業・終業時刻における労務管理について実態把握を行った上で、労務管理における具体な対応を発出
本部（増田）	◎	管理統括部では管理職の他フレックスタイム職員が配置されており、その殆どが主任クラスの事務員ということもあり自己の労務管理の意識も高く、この２年間殆ど超過勤務もない状況が続いており、労務管理が徹底されている。	
福寿苑	◎	時間通りに働く、あらゆるルールに基づいてワークライフバランスに取組めていると思うので、継続的に行い職員が安心して働ける業務づくりとご利用者の安心につながるサービスをしていきたいと考える。	
みのわの里	○	始業については、きっちりと始業時刻に打刻出来ている。最も出勤時間の多い9時についても、事務員、医務職員、デイパート職員、洗濯場職員等が中心で並ぶことはあるがずれることなく打刻できている。終業時刻に関しては、施設介護職員が中心に、介護提供していたことや記録での終業に間に合わないとの理由が上がっており、理由（残業報告や命令）が明確になっている。始業・終業の意識は過去に比べると格段に意識は変わっている。	
布市福寿苑	○	令和5年2月16日から始業0分の打刻から就業開始を改めて明示して実施した。終業は超過勤務により0分打刻にばらつきがあるのが課題である。その他の労務管理についても実態把握を行い指導管理をしていく。	
枚岡の里	○	勤怠管理への意識が個々に高まり、不必要に事業所へ滞在する職員がいなくなった。始業時間や終業時間が明確になることでワークライフバランスが充実したと考える。	
長田の里	◎	通達を職員通用ロホワイトボード張り出しと運慶会議等で伝達し、始業就業時刻厳守に取組む。現在では打刻前後の業務や不必要な滞留は見られていない。	
すいれん	◎	以前より労務管理に関する意識は持っていると感じている。新人職員への労務管理の育成体系はまだまだ不十分な印象がある。承認や決済等に要する時間が勤怠管理システム導入前に比べ必要となっている。	
ひらおか	○	始業・終業の打刻は問題なし。課題は、数名の職員が残業申請のシステム入力ができないため紙媒体で申請し、施設長確認後相談員が入力を行っている。	
喜里川	○	通達について5月職員会議の重点事項として職員に伝達。着替えの認識不足の職員に対し個別指導を行い、現在は全員適正に実施。終業後５分超の申請について事務員チェックにより事後申請になるケースあり。	
ごりょうの家	○	各施設の職員の始業・終業時刻において、打刻方法や休憩時間など、労務管理の徹底をはかった。	
令和5年7月		老健の服薬管理の標準化・手順の統一	老健の施設処方薬（定期薬・臨時薬）と外部処方薬の管理方法、薬剤師、看護師の役割分担の統一・標準化
枚岡の里	◎	老健統一の手順書を作成し、それに沿って実施している。当施設が実施していたものと統一手順書に大きな差異がないことから、現状大きなトラブルはみられない。	
長田の里	○	管理方法を決定しそれに沿って実施。特に問題は見られていない。	
すいれん	○	管理方法などの統一は行えたと考えています。人的ミスをいかに防止するかが今後の課題と思う。	

令和5年7月		不適切介護根絶・組織風土改善の施策	各施設の組織風土を改善し、不適切介護を根絶する必要があるため、「不適切介護の根絶について」の通達を発出
本部（大内）	△	通達を発出後、改善が見られる施設と特に変化がない施設がある。また、法人制定の倫理規定や倫理綱領・虐待防止指針などについて職員の認知度が低いため、啓蒙や相談窓口の周知等に努め、各施設の組織風土改善に繋げていく。	
福寿苑	○	個々がどのように感じたかは不明であるが、当苑は虐待が起こった施設であるので、職員の意識に一定の効果はあったと思う。	
みのわの里	○	通達を運営会議で伝達、掲示板に掲示、各事業にメールで配信して周知。不適介護の研修を実施している。日頃から利用者に対する言葉使い等の接遇や介護についての適正の判断や、職員間での声掛けあいができているのかの把握が十分に出来ていないことが課題としてある。理由としては、日頃から職員からの意見が上がってこないことにある。	
布市福寿苑	△	「不適切介護の根絶について」の通達の掲示と朝礼や幹部会議、虐待防止委員会、身体拘束廃止会議等にて周知。その他、人権研修や不適切ケア研修、高齢者虐待防止指針の周知を実施している。	
牧岡の里	△	現状、風土改善に至っていない。敬語が定着していない。各部門の責任者が模範となり、行動を示すと共に根気よく指導などにあたることが求められる。	
長田の里	△	通達を職員通用口のホワイトボードに張り出しを継続。施設内運営会議にて定期的に各部署内の現状を確認。しかし、言葉遣いなど通達内容どおり行えていない現状があり。必要に応じて個別で管理職面談を実施。	
すいれん	○	各部署及び職員への周知は行えている。今後、定期的な取り組み等を行い、意識をもって業務を行う環境を整える必要があると思う。	
ひらおか	○	通達の回覧、苦情が出た時点で早急に面談を行い、状況の聞き取りを行う。年4回の研修を実施。	
享里川	○	通達について7月職員会議の重点事項として職員に伝達。利用者・利用者家族に対する言葉遣い等について注意喚起。アンケート結果を基に自らの言動を振り返り再発防止に取り組む。その他、サービスマナー研修を開催。	
ごりょうの家	○	「不適切介護の根絶について」の通達を発出。会議や朝礼などで定期的に不適切介護についての確認を行っている。	
令和5年7月		預金口座の統廃合	メインバンクに24口座があり、13口座に統合することでネットバンキングの手数料削減、通帳管理・会計処理等の省力化
吉田	◎	事務手続きが削減され、かつ70万円の経費削減が行えた。	
令和4年10月		様式等の統一	①給与エクセル台帳の統一：給与ソフト入力前に使用している給与管理台帳の統一
令和4年10月			②運行記録の統一：車両運行日誌の様式統一、アルコールチェック確認表の様式統一
令和5年1月			③在留資格保有者の情報確認様式の統一：各施設管理の在留資格保有者の情報を法人で一元管理
令和5年3月			④各施設の現金事務の取り扱いについて統一：各施設の出納管理についてモデルを提示。現金事務取扱要領を発出
令和5年8月			⑤各施設の実習生担当マニュアル・実習生しおりの統一：法人統一の実習生担当マニュアルと実習生用のしおりを作成
本部（大内）	○	最低賃金の改正に伴う給与計算に関し、変更点の通達のみで各施設による処理が大きな混乱なく完了しており、様式統一（給与エクセル台帳）の実施により共通認識が深まり、正確な理解がなされた結果と考察している。	
福寿苑	○	①弥生給与と見比べやすく違いがあった場合も見つけやすい。②運行記録は特に問題ない。③特に問題なし、④現金出納帳があることでレジ月報や請求一覧の入力漏れがあった場合でも気づくことができた。⑤特に問題なし。	
みのわの里	○	①～⑤について、法人の統一様式に変更を実施。職員に変更になっている書式の周知をしているが、各職員に再確認が必要。	
布市福寿苑	○	②～④は特にトラブル等無く運営ができている。①については元々川福会にあったデーターベースを加工したものであったため、支障なく活用している。⑤は今まで未使用。R6.1に実習の受け入れがあるので活用します。	
牧岡の里	◎	トラブルや滞ることなく定着していると考える。	
長田の里	◎	①から⑤統一書式に変更にっては特に問題なく活用できている。	
すいれん	○	統一された様式を使用しており、現状問題ない。給与台帳の統一や、現金の取り扱いについては複数名での確認が出来る様になったと思う。	
ひらおか	◎	①、②問題なく実施　③なし④９月より経理事務員施設配置になったため、細かなダブルチェックが可能になる。⑤マニュアルファイル作成設置。	
享里川	○	各種統一様式に変更。現金の紛失や間違い等を防止するため、今後、ケアハウス連絡会の中で利用料収受および利用者預り金等について協議予定。	
ごりょうの家	◎	上記を厳守している。	
令和4年5月		採用活動強化、人員配置の工夫	①各施設求人票の統一：管理統括部で職種ごとの統一求人票サンプルを作成し各施設で使用
令和5年5月			②労務管理システムを活かした各事業の総労働時間の毎月確認：定員に対する対利用者サービス提供時間を算出し人員配置を考察
令和5年4月			③各施設の入退職状況の把握方法の変更：各施設の入退職状況を雇用形態ごと、職種ごとに、毎月離職率を換算するシートに入力
令和5年4月			④夜勤専従パート職員の募集強化：夜勤専従職員の募集を推進するため、夜勤手当に割増時間等を全て含んで増額し、処遇改善
令和5年4月			⑤ホームページの求人情報を整理：法人単位の募集により、問い合わせがあった場合、充足していない事業所へ紹介を行う
令和5年4月			⑥通所介護職員の人材の流動化：応募がきやすい事業所で募集を行い、採用した場合は現職の職員を充足していない事業所へ異動
令和5年9月			⑦各施設の近隣施設（郵便局、商業施設）への求人チラシ設置：法人が力を入れている夜勤専従職員募集統一求人チラシを作成し設置
吉田	○	各施設が正しい求人情報を発出できておらず、法人で求人情報記載内容を統一。夜勤専従職員の効果が最も高いが、採用後の退職もあり、また全体での応募は年々減少している。（令和5年度はパート介護士の採用がより困難になっている。）	

特別養護老人ホーム　福寿苑　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

（１）職員のコロナウイルス罹患者はあったものの、施設入所者の罹患者はなく、短期利用者の発生のみであった。

施設入所者が肺炎等で入院を伴う数が増加し、稼働率に影響した。

空床となったベッドを併設事業で利用し、新規受け入れにつとめた。

通所系サービスについても感染症による影響は少なく、事業の運営に努めることができた。

（２）拠点各事業で収支を安定させるため、入所事業で取得する加算を継続的に取得につとめた。

職員定着における課題の取り組みとして、教育や指導、研修の実施業務整理を他法人との見学会、情報交換し業務改善につなげた。また職員が働きやすい環境となるよう努める中で、ご利用者のサービスの質の向上に努めた。

（３）情報共有システム構築及び記録システムの活用をすることで、情報待ちとなっていた職員の姿勢は自ら情報をキャッチし共有する体制が構築された。

職員の適正配置は業務内容に目を向けると不足が生じる時間帯もあり、派遣契約社員を配置し維持している状況は改善出来なかった。

（４）学校連携により学生が福祉に目を向ける機会となった。

介護老人保健施設と特別養護老人ホーム、グループホーム見学で法人資源を活用していただく機会となった。

また近隣高校でご利用者の活動の場を提供いただけ、地域と連携して必要な支援、社会貢献、福祉活動、教育活動を実施できた。地域住民の買物ツアーも継続し、地域サロンも実施できた。また隣接施設と共同し防災訓練実施。

今後は地域と連携した防災活動の準備ができたため、枚岡地域の拠点として連携していく。

【２】数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠　点	目標	―	100%	72.0%	24.0%	10.3%	△6.3%
	実績	―	98.0%	71.7%	23.9%	10.6%	△6.2%
特　養	目標	95.0%	100%	72.8%	28.5%	13.0%	△14.4%
	実績	93.7%	97.6%	67.6%	29.0%	13.4%	△10.0%
短期入所	目標	98.0%	100%	59.0%	19.3%	0.7%	20.9%
	実績	100.4%	97.8%	57.4%	18.4%	0.8%	23.4%

通　所	目標	70.0%	100%	75.0%	26.0%	18.8%	△19.8%
	実績	64.4%	97.3%	80.4%	23.1%	19.5%	△23.1%
認知通所	目標	65.0%	100%	65.0%	15.3%	5.8%	13.9%
	実績	59.9%	94.6%	80.9%	15.8%	6.1%	△2.8%

居宅介護	目標	2484人 1人39.0	100%	75.0%	3.0%	1.2%	20.8%
	実績	2124人 1人33.4	93.1%	91.0%	3.8%	1.3%	3.9%
介護予防	目標	2400人 1人42.0	100%	55.0%	48.0%	—	△3.0%
	実績	2953人 1人49.2	124.4%	41.5%	37.3%	—	21.2%
地域包括	目標	150件	100%	80.0%	15.5%	2.9%	1.6%
	実績	176件	103.6%	81.3%	14.9%	2.9%	0.9%

※地域包括支援センターは、介護予防教室・家族介護教室・グループ活動支援・地域ケア支援集団・認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・生活支援コーディネーター活動（集団）などの開催件数。

【３】事業計画の実施状況

（１）特別養護老人ホーム福寿苑（短期入所事業を含む）

①午前中迄の短時間勤務の職員が多く、午後配置の職員が不足している状況に対し面談を重ね、勤務時間延長や出勤回数改善につながり職員配置整理にすすんだ。

夜勤職員配置は派遣社員に任せる状況が続くが、直接雇用職員の日勤帯労働時間割合が増えた事と職員２名雇用出来ていることにより不安定であった職員配置は改善傾向にある。

②経口維持加算取得に向けＷＥＢ研修を受講し取得に向けていたが、経口維持加算の取得には医師または歯科医師との話し合いが出来なかった。

またＡＤＬ維持等加算については多職種間での連携が出来ておらず未取得となった。

その他、算定している夜勤職員配置加算について算定要件である配置数に満たなかったため、算定を行わなかった状況があるが、時間設定、職員配置を見直しご利用者へ安定したサービス提供を行い継続して算定出来ている。

③常置委員会とは別に虐待防止対策チーム、福寿苑みらいチームを結成。虐待

防止対策チームでは法令に沿った研修・委員会の開催管理を行い、虐待アンケートの実施。また研修企画管理チームが研修動画を作成し研修実施し利用者の安心につながるものとなるよう実施した。

また指導者となる人材の育成について「人間力」を高める取り組みについて研修などすすめていたが、統一性を持たせた指導育成において経験年数や職種にあわせた具体的内容で行うことが課題となった。

（２）通所介護（認知症対応型を含む）

①退職者は非常勤看護師１名、送迎職員１名退職となった。

採用においては正社員看護師１名採用も長期勤務継続せず退職。介護福祉士２名、社会福祉士１名の採用、非常勤看護師２名の採用が出来た。

認知症に対する事業運営の方針については研修の機会を設けるなど共通の理解となるように変化した。

個々の接遇力の向上にも目を向け、安心したサービス提供ができるようにすすめたものの業務改善の職員役割に重視するあまり、円滑な遂行と協力体制の構築に至らず十分な連携に欠ける結果となった。

②システム導入により統一した実施方法とご利用者にあわせた個別機能訓練を提供する体制を整備。個別の要望にあわせたサービス内容の提供ができるようにすすめているが稼働率は目標とした数値未達成となっている。

継続して事業所の介護支援専門員との連携により利用者の要望を聴取し、事業所の業務改善、職員定着を行い安定した事業運営を継続する。

（４）居宅介護支援事業所

①「質の高いケアマネジメントの推進」

・週１回の会議で困難事例の情報共有と支援策について意見を出し合った。地域資源の情報を共有した。

・令和５年度の個別計画と外部研修に積極的に参加伝達研修を行った。

・包括主催の事例検討会へは当番制で参加し全員がケアマネジメントの向上が図れた。

他の居宅介護支援事業所との事例検討会に参加し事例を提供し、いろんな意見を聞くことができケアマネジメントの質の向上が図れた。

・東大阪市と居宅介護支援事業所との意見交換会は書面開催だったので、居宅会議で概要を伝達研修した

②「業務効率を図りワークライフバランスの実現」

・管理者以外の職員のフレックス制度活用や、時間有給など多様なワークライフバランスが取れた。

・コロナウイルス感染症が５類となったため、感染拡大防止のため計画的に行ってきたテレワークは不定期で実施する方法とした。

③「地域の諸機関との連携強化」

・受け入れ枠を確保し対応困難ケースを優先的に受け入れる体勢を整えた。

・医師会研修や包括主催の多職種連携研修会などに参加し顔の見える関係性作りが出来た。

（５）地域包括支援センター

①介護予防教室は昨年度同様に３か所の体操教室と１か所の絵画教室を行い、また要望の多いスマートホン講座を立ち上げ、計画通り開催出来た。

体操教室の人数制限も緩和しており、ご希望される方には参加して頂いている。新たに客坊会館での体操教室も行いご参加頂いている。

立ち寄り型教室などの新たな形式での開催は行っていないが、希望された方には集合型の教室への案内を行う事が出来た。概ね希望の方に体操教室もご参加頂けており、リモート開催はしていない。

②今年度は市の施策として『高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業』を行っており、６月の高齢者生活支援等会議にて事業内容の説明と圏域の皆様への協力をお願いした。

『高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業』での口腔フレイル講座』を３回行い、計４回開催することにより、圏域の高齢者へのフレイル予防に対する啓発が出来、地域の高齢者の健康づくりに取り組んだ。

高齢者生活支援等会議では地域での情報共有は出来たが、新たな地域課題の把握や地域資源の開発や地域ケア会議の開催は行えなかった。

③圏域や委託先居宅介護支援事業所との連携を目指してケアマネ研修会を集合型で開催した。今年度計４回開催出来た。その内２回は顔の見える関係作りのため集合型で開催した。また、今年度は事業所支援として高齢者の金銭管理についてオンラインでの研修を１回行った。Ｂ地域の多職種連携研修会も７月、２月にオンラインと集合でのハイブリッド開催し、計２回開催した。

④「認知症サポーター養成講座」は開催予定していたが、申し込みが無く、包括事務所主催では開催出来なかった。しかし、東大阪市の依頼により、担い手向けの認知症サポーター養成講座を２月に１回開催出来た。

圏域の２小学校での「キッズサポーター養成講座」は開催出来たが、１小学校の「高齢者疑似体験」は小学校の都合により開催出来なかった。包括事務所での認知症サロン「おれんじサロン」は毎月定期開催が出来た。

【４】施設の課題

（１）事業運営の安全性

安定した職員体制を維持することで質の高いサービスの提供が行える。感染症が発生して大きくサービスの質を低下させることはなかったが、正社員職

員数が不安定な状況は課題である。次年度も組織体制の見直し、職員定着の業務改善と教育の徹底に努める。

（２）事業収益構造改善

質の高いサービス提供を行い加算取得による質を高める取り組みを強化。
収益アップにつなげる職員体制づくりを徹底し収益アップにつなげていく。
また、派遣社員に頼る費用の増加は大きな課題である。

（３）教育指導の機会を確保

教育機会などを確保して業務遂行をしてきたが、集合型での開催は困難であり研修の機会は体制に左右されず、業務効率の良い方法で行えるように改善していく。

【５】付表

（１）年間行事

特別養護老人ホーム

月	行事内容	
4	花見ドライブ（未開催）　　花見会（開催）	
5	春の外食ドライブ（未開催）	※端午の節句・母の日会開催
6	春の外食ドライブ（未開催）	※父の日　（未開催）
7	七夕会（開催）	
8	夏祭り（開催）	
9	敬老祝賀会（開催）	
１０	秋の外食ドライブ（未開催）	※運動週間（未開催）
１１	秋の外食ドライブ（未開催）	
１２	クリスマスお食事会（開催）	
1	元旦お食事会（開催）	
2	節分祭（未開催）	
3	ひな祭り（未開催）	
毎月開催	・誕生日会・ホーム喫茶・DVD 観賞会・書道クラブ ・各種レクリエーション	

デイサービスセンター

月	行事内容
4	お花見（4/2～4/8）
5	室内運動会（5/4～5/6）　未来茶房和ごころ（5/28）

6	おやつ作り（6/16～6/25）
7	七夕祭り（7/5～7/7）
8	夏祭り　延期
9	敬老祝賀会　延期
１０	文化祭（10/22～10/25）
１１	焼き芋大会（11/19）
１２	クリスマス会（12/21～12/23）
1	新年会（1/10～1/12）
2	節分祭（2/1～2/3）
3	ひな祭り（3/1～3/3）
随時開催	・季節のお風呂・誕生日会・アコーディオン演奏会 ・カラオケ・ごちそうの日

（２）防災訓練

月	種　別	訓練内容
4	基礎訓練	新規職員を対象とした消火器の取り扱い、消火活動訓練、水消火器を使用した模擬消火訓練
6	ＢＣＰ訓練（天災）	ライフライン停止から復旧までを想定した、備蓄食の取り扱い及び廃棄物の処理方法などの訓練
9	総合訓練	【消防職員立会いによる３施設合同の総合訓練】職員と入所者を対象とした通報、消火、排出訓練
１１	ＢＣＰ訓練（感染）	感染症発生拡大から蔓延抑圧までを想定したシミュレーション訓練
１２	夜間総合訓練	夜間並びに日祝日等職員の少ない場合を想定した夜勤者・宿直者による通報、消火、避難訓練
2	土砂対策訓練	職員と３・４・５Ｆ入所者を中心とした土砂災害時基礎訓練

※防災訓練は２月に福寿苑、枚岡の里、ケアハウスひらおかと合同で夜間を想定した防災・避難訓練、消火訓練を実施。

※３月に上記同様、施設合同ＢＣＰ訓練（天災）、土砂対策訓練を実施。

（3）研修

特別養護老人ホーム

月	研修内容（テーマ）
4	接遇研修（サービス向上） 法人理念ビジョン（業務監督）
5	事故・リスクマネジメントに関する研修（事故予防）
6	感染症に関する研修（感染症）
7	褥瘡に関する研修（褥瘡ケア） 身体拘束・虐待に関する研修（身体拘束）
8	安全対策に関する研修（安全対策） 口腔ケアに関する研修（機能訓練）
9	苦情対応に関する研修（苦情対応） 安全運転研修（安全運転管理）
１０	事故・リスクマネジメントに関する研修（事故予防）
１１	高齢者の人権・虐待に関する研修（人権、虐待）
１２	食中毒に関する研修（感染症）
1	個人情報、プライバシー保護についての研修（個人情報保護）
2	BCP 関する研修（対策チーム）
3	認知症ケアに関する研修（認知症ケア）
不定期	ミニ研修（ハラスメント対策、OJT 研修、苦情対応研修他）

デイサービスセンター

月	研修内容
4	接遇と苦情対応　感染症　安全運転
6	感染症　ハラスメント
9	虐待
１０	ハラスメント
１１	看護師等認知症対応向上研修
１２	人権（身体拘束）
2	重度認知症の方への口腔ケア研修

地域包括支援センター事業実績報告書

令和5年度年間合計	センター名	福寿苑	今年度新規相談実人員	532

相談件数

実態把握加算対象	1731
加算対象外件数	2
相談件数合計	1733

認知症相談件数	258

権利擁護援助件数	25
うち虐待関連件数	20

相談者と相談方法

本人	家族	CM	その他	計
235	244	114	1140	1733

訪問	来所	電話	計
1618	115		1733

家族形態

同居	独居	計
1037	696	1733

身体状況

不明	未申請	申請中	自立	要支援		要支援計
				1	2	
4	221	87	13	811	470	1281

総合事業	要介護度					要介護計
	1	2	3	4	5	
35	54	17	10	6	5	92
					計	1733

相談内容及び申請代行

	介護保険	介護	福祉サービス	保健医療	家族関係
相談内容	1724	159	11	22	44
申請代行	202		#REF!		

	介護予防	基本チェック	その他	計
相談内容	22	3	183	2168
申請代行				#REF!

サービスの状況と利用希望

	ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ
現利用									
利用希望	58	145	22	2	2	130	8	19	5

	配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中	計
現利用										
利用希望	14	85	26	139	1					656

単位地域ケア会議

会議出席者	介護支援専門員	サービス事業者	医師
	医療機関職員	自治会	民生委員
	校区福祉委員	家族関係	知人

単位地域ケア会議加算対象	初回	最終

地域ケア支援・生活支援コーディネーター内訳

相談方法

訪問	来所	電話	FAX等	計
2		9		11

相談者

虐待	重層的
11	

地域ケア支援個別加算対象	11
地域ケア支援集団加算対象	52
生活支援集団加算対象	8

	介護支援専門員	サービス事業者	主治医	医療機関職員	関係機関	学校機関	NPO法人
地域ケア(個別)					11		
地域ケア(集団)	5	20					
生活支援(集団)							

	ボランティア	自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	その他	計
地域ケア(個別)							11
地域ケア(集団)	1	14		7	3	2	52
生活支援(集団)	2	2				4	8

認知症支援

認知症カフェ(主催)	認サポ・認知症カフェ(その他)	うち(他カフェ)	認知症本人活動支援(個別)	認知症本人活動支援(集団)	計
12	4		1	1	18

高齢者生活支援等会議

地域活動団体				福祉・介護職		
自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	居宅介護支援	訪問介護	通所介護
1	2	3	1	2	3	1

医療機関				
医師	歯科医師	薬剤師	その他	計
3	3	2	3	24

高齢者生活支援等会議加算対象	3

実施した支援・内容

	地域ケア支援(個別・集団)					
	ケアマネジメント支援	ソーシャルワーク援助	情報提供	連携支援	その他	計
個別					11	11
集団	5		47			52

	生活支援コーディネーター活動(集団)				
	生活支援の担い手の活動状況確認	生活支援の担い手養成支援	総合事業の制度説明等	取組の事例発表	計
集団	8				8

第1層への課題提示

第1層への課題提示加算対象	

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

令和 5年度年間分

支援センター名	福寿苑

地域介護予防活動支援

相談・支援件数

総件数	うちグループ活動支援
28	12

グループ種別

老人クラブ	校区福祉委員会	自治会	老人Cボランティア	その他	計
				28	28

相談方法

訪問	来所	電話	その他	計
			28	28

教室実施状況

開催件数

介護予防教室開催件数	57
家族介護教室開催件数	6

特別養護老人ホーム　みのわの里　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

（１）法人理念は、自身のあるべき姿であることを適宜会議の伝達内容に入れ理解を深めるように努めました。

コロナ禍で、朝礼での法人理念唱和も４年以上しておらず、職員一人一人の法人理念の希薄が心配されます。法人理念を持って行動すれば、各利用者、地域の方になくてはならない存在となるとともに、職員もより良い環境で勤務できることを再周知しなければと思います。

（２）災害時対策につきましては、ＢＣＰの机上訓練の実施・備蓄食、備蓄水を備えることで、日頃から非常時の備えを整え、災害時対応を確認しました。

感染症対策につきましては、特別養護老人ホームで３度の新型コロナ感染症のクラスター、１度ノロウイルス感染症が発生しましたが、研修等の取り組みと今までの経験を生かし、速やかに感染予防拡大防止策を講じることで、昨年より感染者数も抑えることができました。

また、日頃の職員及び各サービス利用者の体調管理や適宜の抗原検査の実施、標準予防策の実施により、安全に安心して生活が送れるように努めました。

（３）住み慣れた地域の身近な社会資源（施設）として、施設入所者家族の面会制限がある状況のため、施設を活用しての「地域サロン」等の開催実施ができませんでした。そのため、施設として地域の方からの課題抽出ができませんでしたが、だんじり祭りの休憩場所としての施設活用、施設前でのハローウィン行事を開催し、徐々にコロナ前の状況に近づいています。

来年度は、入所者の面会の制限の緩和に伴い、地域サロンの再開を検討しています。また、地域包括支援センターとして、地域の委員会に参加し、地域の祭り開催時の人手不足の課題を抽出し、施設職員で手伝うことで課題解決に取り組みました。

（４）特別養護老人ホーム(短期入所生活介護含む)及び、、通所介護事業での介護記録システム（ブルーオーシャン）の活用強化により、各帳票作成のデーター移行でのペーパレス化により、業務効率向上とタブレットパソコンでの情報共有をの迅速に行えました。

また、訪問介護事業では、職員全員に介護ソフトがインストール済のタブレットを配布し、サービス提供内容の指示と確認、利用者の状況確認の共有が行えました。また、業務連絡には情報共有アプリを活用しました。職員の外部研修（オンライン研修含む）の参加について、職員からの申し出が少ない状況であるため、自身から研修参加を希望できる仕組み作りの検討が必要です。

（5）各部署にメールアドレスを付与しており、メールにより各職員へ伝達すべき正しい情報の周知を行いました。

その情報を各職員へ周知できているか（メール内容を全ての職員が確認しているか）については、知らなかったと意見を耳にすることがありましたので、確実に全職員へ正しい情報の周知方法についての方法の検討が必要と考えます。

【2】数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠　点	目標	－	100%	67.4%	23.6%	3.8%	5.2%
	実績	－	95.4%	67.6%	21.8%	3.9%	6.7%
特　養	目標	95.0%	100%	58.6%	31.3%	4.3%	5.8%
	実績	92.8%	98.6%	56.8%	28.5%	4.4%	10.3%
短期入所	目標	87.0%	100%	51.5%	23.7%	5.5%	19.3%
	実績	95.8%	105.4%	57.8%	19.9%	4.8%	17.5%
通　所（障害含）	目標	80.0%	100%	81.6%	16.0%	5.1%	△2.7%
	実績	73.7%	93.1%	69.2%	14.1%	5.7%	11.0%
認知通所	目標	65.0%	100%	72.4%	16.3%	2.8%	8.5%
	実績	50.3%	79.6%	99.4%	17.9%	3.5%	△20.8%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

訪問入浴	目標	899人 1日3.5	100%	114.0%	5.9%	0.7%	△20.6%
	実績	696人 1日2.7	80.1%	153.4%	5.6%	0.9%	△59.0%
訪問介護 介護保険	目標	17376人 1日3.5件	100%	106.0%	4.7%	2.7%	△13.4%
	実績	11787人 1日3.6件	67.9%	131.7%	5.7%	10.0%	△47.4%
訪問介護 障害福祉	目標	10860件 1日2.8時間	100%	62.0%	4.0%	0.7%	33.3%
	実績	4328人 1日1.9時間	84.0%	64.3%	5.2%	0.6%	29.9%

※訪問入浴の訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と1日あたりの訪問件数（下段）
※訪問介護の訪問件数は年間延べ利用者数（上段）と（下段は）介護保険は職員常勤1人1日あたりの訪問件数、障害福祉は職員常勤1人1日あたりの訪問時間

居宅介護	目標	2838人 1人38.0	100%	81.0%	2.9%	0.8%	15.2%
	実績	2645人 1人36.7	94.1%	89.0%	2.9%	0.8%	7.3%
介護予防	目標	2160人 1人36.0	100%	63.1%	46.2%	0%	△9.3%
	実績	2574人 1人42.9	129.9%	51.5%	32.4%	0%	16.1%

※担当件数は年間延べ利用者数（上段）と職員常勤１人１日あたりの訪問件数（下段）

地域包括	目標	131件	—	93.4%	7.3%	2.9%	△3.6%
	実績	163件	111.3%	90.3%	5.7%	3.5%	0.5%

※地域包括支援センターは、介護予防教室・家族介護教室・グループ活動支援・地域ケア支援集団・認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・生活支援コーディネーター活動（集団）の開催件数

【３】事業計画の実施状況

（１）特別養護老人ホーム

①人権についてより理解を深め、ご利用者の尊厳を保ち、充実した生活が送れるように努めます。

・人権研修に参加及び内部研修を実施し、人権について理解を深めました。
ご利用者が、充実した生活が送れる様に要望を傾聴し、外出支援（自宅や買い物）や冠婚葬祭への参列支援等を行いました。

・高齢者虐待防止委員会の設置及び指針の作成を行い、日頃の介護を振り返り入居者の人権や不適切ケアについて学びを深めました。

・認知症介護基礎研修に無資格者８名が受講し、認知症の方が不安に感じていることを知り、アセスメントを行い支援することの必要性を知りました。

・身体拘束等の適正化委員会を開催し、身体拘束等の理解や代替え対応についての研修、毎月の対象者の状態確認と対応策を検討することで、身体拘束実施者１名の身体拘束の廃止が実現できました。

②ご利用者・ご家族のニーズに応えるため地域の社会資源を活用し、個別支援の充実を図ります。
感染症対策を行い、人混み等は避けて出来る限りの支援を行います。

・個別支援として、自宅への送迎を行いました。
また、行きたい場所や食べたい物・買いたい物がある場合に送迎と付き添いを

行い、支援を行いました。

③ご利用者の季節感・楽しい・美味しいと感じてもらえる食事の提供、１人ひとりの状態に応じた栄養管理を行いＱＯＬの向上を目指します。
ブログを通じて食事に関する情報を発信します。

・季節感・楽しい・美味しいと感じてもらえる食事の提供を行いました。
個別で状態に応じて対応を行いました。ブログは数回のみの発信でした。

（２）短期入所生活介護

①住み慣れた地域で在宅生活が継続して送れるよう、施設サービスにおいての自立支援の提供を行います。

・施設の理学療法士による、機能訓練の実施を行い住み慣れた場所で継続して生活が送れるよう支援を行いました。

②地域の社会資源として、ご利用者、ご家族からの緊急受け入れなどの様々な要望に答え、選ばれる施設になります。

・主介護者の入院及び、ＡＤＬの急激な変化から在宅医療では対応できない方の受け入れを、特養の空床ベッドを活用し対応を行いました。

・特養の空床ベッド年間 2529 床の内 600 床を利用し、社会資源として活用して頂けるよう調整を行いました。

・新規利用者年間 61 名の方にご利用いただきました。

（３）通所介護・認知症対応型通所介護・身体障害デイサービス

①ＯＪＴと連動した外部研修参加促進を実施する事で職員の知識や技術の向上を図り、質の高いサービス提供を行います。

・内部研修は年間計画にあげた内容で、個人的に受講したいと希望があったのは１名のみでした。
自発的な研修受講を推進できるよう、職員個々の新たなスキル取得やスキル向上意欲を高めるよう事業所の風土作りが必要です。

②施設内通貨等の認知症対応型通所介護での独自の取り組みにより、認知症の改善及び進行予防を図るとともに、ご利用者の生きがいと楽しみを持つことができるサービス提供の充実を図ります。

・ご利用者にポイントカードを、日々の日常生活動作等を行った際に随時貯めてもらっていますが、実態的にはそれがご利用者のやりがいに繋がっていないため、ポイントが貯まった時の商品の内容や、個別援助の強化、仕組みなど改善する必要があります。

③現場視点からの業務効率に取り組みができるよう、風通しの良い一体感を感じる事ができる職場環境を目指しボトムアップを推進します。

・業務効率化の意見を集約し、フロアの配置変更及びインターカム（トランシーバー）を使用したことにより効率化が図れました。

（４）訪問入浴

①ご利用者の身体状況、住環境等の様々な状況に対して、職員の介護力の向上とともに、正しい情報を共有することで、安心・安全な入浴サービスを提供します。

・ターミナルケアの方の依頼が多く、ケアマネジャー、訪問看護事業所と密な連携をし、自宅で安心して入浴をしていただけるように迅速に対応しました。そして、ご本人やご家族が安心して心穏やかに過ごしていただけるように、限られた時間の中でのコミュニケーションにも注力しました。

②月に１件以上の新規利用獲得を目指し、訪問入浴事業の発信を行います。また、様々な事業所との連携を深めることを目的とし、積極的に事業所訪問（営業活動）を行います。

・毎月の実績報告は出来るだけ訪問し、顔の見える関係性の構築に努めました。また、援助時の気付き等を迅速に担当ケアマネに連絡することで、互いに相談や検討などが行えました。

また、営業活動も行い、その結果、新規利用者や過去に実績のあった居宅介護支援事業所・訪問看護事業所からの相談、紹介などに繋がりました。

（５）訪問介護

①今年度より、法人の訪問介護事業統合による、タブレットの導入や介護記録システムの導入によりＩＣＴ化の活発化を目指します。

それにより、職員１人ひとりの生産性向上、記録業務のスリム化、職員間の連絡業務の円滑化を目指します。

職員間の情報共有が正確で速やかに行える環境を作り、安心して勤務ができる環境作りに努めます。

・ケアタブレットを全職員が活用する事で、記録の入力およびサービス提供内容や利用者の状況の共有が円滑に行えるようになりました。

その結果、特定事業所加算の取得に繋がりました。

②新規利用者獲得に努めます。

また、要介護者の身体介護の提供を積極的に行えるように、事業所の強みを居宅介護支援事業所に発信し、身体介護の割合30％を目標とします。

・徐々に増加して３月時点で38％になり、目標は達成する事が出来ました。

③介護保険サービス外の自立支援に必要な自費サービスの提供をします。

・身体介護・生活援助共に自費サービスでのご利用は毎月依頼があり、提供しました。

介護保険制度では利用できない事も自費でご対応する事で自立支援に繋がりました。

④訪問介護事業の統合に伴い、新規事業となる障害福祉サービスの運営が安定し

て行え、ご利用者（そのご家族）に安心して生活を送っていただけるよう継続したサービス提供を行います。

・事業所の統合による、ご利用者へのサービス提供に大きな不利益が生じないように、継続してサービス提供を行いました。

障がい福祉サービスにつきましては、提供できるサービスの地域範囲が偏っていることが課題にあります。

⑤地域の障害施設等と顔の見える関係を作り、連携し地域共生社会の推進を行います。

・顔の見える関係性が構築できるように、サービス提供責任者が、サービス提供をしている障がい福祉施設を訪問し、営業活動や日頃の連携等積極的に行いました。

その結果、新規利用者の依頼を受ける等、障がい福祉施設との連携により、地域共生社会の推進に繋がりました。

（６）居宅介護支援事業所

①重層的支援が行えるよう専門職として質の高いケアマネジメントを提供します。年間１８件の外部研修（障害福祉や医療）や事例検討会に参加します。

伝達研修を行い重層的支援体制に対応できるよう資質向上を図ります。

・年間２４件の内・外部の研修・事例検討会に参加。

参加研修について、伝達研修を行い、重層的支援体制に対応できる専門性の資質向上を図りました。

②地域の身近な社会資源として貢献するために、医療機関・介護事業所・障害施設と連携し関係構築を図ります。

・他法人との合同研修を年２回行い、事例検討と情報共有を行いました。

また、地域の通所サービスや医療関係事業所や福祉用具事業者等と勉強会や情報共有を行いました。

③業務効率化・ペーパレス化を図り生産性向上を目指します。

・ペーパレスのため、関連機関の７割に提供票を送る手段として、メールを活用することでペーパレス化することができました。

・テレワークの活用により、勤務形態の多様化と業務効率の促進を図りました。

（７）地域包括支援センター

①予防教室からの自主グループ化を促進します。

フラダンス教室の自主グループとしての活動が開始されました。

自主グループの活動の場として、デイサービスの慰問、社協主催の健康見本市への参加の手配を行いました。

また今年度のフラダンスの修了生を自主グループの活動に移行できました。

②圏域事業所間の交流の実現をします。

ZOOM 中心の研修会から、中鴻池リージョンセンターを会場して対面型の研修会を月一回以上開催。

事業所間の交流の場にもなっており、顔の見える関係性の構築ができました。

③障害分野の事業所との連携を強化します。

若草会と「障がいサービス」の勉強会、「介護保険サービス」の勉強会を開催。

実習生の交流や若草会イベントへの参加で、連携を強化できました。

【４】施設の課題

①エレベーターの経年劣化により、制御盤のリニューアル工事を計画。

・エレベーター制御盤リニューアル工事 1,210 万円の実施を計画していましたが、業者との工事内容検討と見積もり比較が年度内に間に合わず、令和６年度に実施予定となりました。

②地域福祉の向上のため、地域に皆様が住み慣れた場所で安心して暮らしていけるよう取り組みます。

・看取り介護実施者１８名の看取り介護を実施。住み慣れた場所で最後まで安心して生活を送って頂けるよう支援しました。

・大阪府社会貢献事業について、２件の事案の対応を行いました。

・感染症や災害への対応を強化しました。

・新型コロナウイルス感染症の発生時の訓練を実施し、緊急時に事業が継続して行えるように対応しました。

・火災、水害を想定した避難訓練を実施しました。

・館内に設置している消火器の入れ替えを実施しました。

・災害に備え、新たに非常備蓄水の入れ替えを行いました。

・福祉避難所としての機能を果たすため、非常災害時を想定した備蓄非常食の実食研修を行いました。

②地域住民等への車椅子等の無料貸し出しを行います。

・１年間で１６台の車椅子の無料貸し出しを実施しました。

③月１回地域清掃を行い、地域美化運動に取り組みます。

・毎月地域美化運動及び施設内の清掃活動を実施しました。

【５】付表

（１）年間行事

特別養護老人ホーム

月	行事内容
4	お花見（古箕輪公園）
5	ドーナツ行事
6	スイカ祭（実施）・外食支援（回転ずし）
7	季節の食事行事（うな丼）
8	夏祭り（フロア開催） 誕生日食（山菜御前　旬の野菜の天ぷら、わらび餅）
9	味覚狩り（旬の果物）
10	秋祭りだんじり見物（実施） ハローウィン行事（実施）
11	誕生日食（洋風ランチ・コーヒーゼリー） 海鮮たたき丼
12	クリスマス会（フロア開催）
1	元旦祭
2	誕生日食 （炊き込みご飯・天ぷら盛り合わせ、かぶのかにかまあんかけ茶碗蒸し、黒蜜ゼリー）
3	握り寿司

通所介護

月	行事内容
4	春彩り御膳・花見
5	母の日ランチ
6	父の日イベント色　居酒屋風・室内運動会
7	夏の涼風ランチ・天の川モービル作り
8	ひまわり御膳・夏祭り・お月見飾り
9	お月見御膳・敬老祝賀会・紅葉飾り
１０	釜めし膳・秋の室内大運動会・実りの秋飾り
１１	ミニ丼3種ランチ・秋祭り・クリスマス飾り
１２	クリスマスランチプレート・ゆず湯・クリスマス会 今年もありがとうイベント・みのわ神社・2024年賀正飾り
1	ぽかぽか生姜鍋・絵馬・書初め・絵手紙・バレンタイン飾り
2	初午弁当・節分祭・雛飾りスタンド・タンポポと蝶々飾り
3	春爛漫御膳・握り寿司定食・桜の壁掛け飾り・チュウリップ飾り

（2）防災訓練

月	種　別	訓練内容
１１	夜間訓練	夜間の火災を想定した訓練 初期消火及び避難訓練 担架を使用しての垂直訓練 消火設備の場所及び使用方法の説明
１０	防災訓練	地震発生時における机上訓練 初動確認及び危険個所の確認 非常時における対応の確認
3	日中訓練	日中の火災を想定した消火訓練 初期消火及び避難訓練 担架を使用しての垂直移動訓練 消火設備の場所及び使用方法の説明

（3）研修

特別養護老人ホーム

月	研修内容
4	新卒研修（人権、接遇、認知症ケア、事故防止、感染症、介護体験） 高齢者虐待防止研修（身体拘束・不適切ケアについて）・ハラスメント研修
5	感染症及び食中毒の発生の及びまん延の防止に関する研修（感染症におけるゾーニング、正しいPPE着用について）・腰痛予防研修
6	褥瘡予防研修・口腔ケア研修
7	事故予防研修・認知症介護基礎研修
8	認知症介護基礎研修
9	口腔ケア研修
１０	褥瘡予防研修
１１	看取りケア研修
１２	人権研修（高齢者虐待防止）
1	身体拘束・高齢者虐待（不適切ケア）に関する研修・腰痛予防研修
2	口腔ケア研修・認知症介護基礎研修・感染症予防研修 人権研修（不適切ケア）
3	認知症介護基礎研修

通所介護

月	研修内容
4	認知症のチームケアが大事！介護に有効なチームケアとは？
5	デイサービスにおけるコーチングとティーチング研修
6	スライディングボード使用方法について
7	接遇マナー（言葉使い・態度）に関する研修
8	倫理及び法令孫遵守に関する研修
9	人権研修
１０	事故発生予防又はその再発防止に関する研修
１１	認知症ケアのコミュニケーション
１２	事故の発生等緊急時の対応に関する研修
1	感染症対策研修　/　身体拘束・虐待防止に関する取り組み
2	個別機能訓練・介護予防・要介護度進行予防
3	非常災害時の対応に関する研修

訪問入浴

月	研修内容
5	高齢者の虐待防止について
6・7	介護技術・ベッド上での更衣介助
8・9	介護技術褥瘡予防、対処
9・10	肌トラブルについて
11	認知症のチームケアについて
1・2	入浴と血圧の変動について

訪問介護

月	研修内容
4	訪問介護の接遇マナー
5	個人情報とプライバシー
6	認知症ケアのポイント、ハラスメント
7	緊急時対応
9	コミュニケーション技法、ハラスメントに関する研修、食中毒の蔓延防止 介護保険サービスと医療行為、サービス提供時間厳守について、対人援助
10	タブレット記録の書き方について、人権・高齢者虐待防止研修、 緊急時対応、アンガーマネジメント、ボディメカニクス、排泄介助技術、 全身清拭、入浴介助技術
11	アンガーマネジメント、コミュニケーション技術、ストレスマネジメント 認知症ケア、メンタルヘルス、苦情対応、疾患別の調理、更衣介助、 車椅子の選定、オムツ交換、安全な見守り方法、
12	口腔ケア・食事介助、虐待予防研修、介護技術、
1	虐待予防研修、身体拘束研修、移動・移乗介助、
2	認知症ケア、倫理・法令遵守・プライバシー保護、腰痛体操、調理
3	感染症予防、コミュニケーション技法、入浴介助方法、更衣介助技法 清潔保持、緊急時対応、食中毒、車椅子介助技術、高齢者の栄養について

居宅介護支援事業所

月	研修内容
4	高次機能障害事例検討会
5	成年後見制度研修
6	障害福祉サービス研修会、他法人との事例検討会
7	多職種連携研修会(感染症 BCP について)、地域医療支援病院研修会

8	食事研修会（施設での食事について）
9	高齢者虐待研修
１０	医療フォーラム（在宅医療と食について）、人権研修 多職種連携研修会(災害時 BCP について)、事例検討会
１１	コミュニケーション研修、他法人合同事例検討会
１２	東大阪市高齢者地域ケア会議（認知症研修）、中地域居宅研修会 医療・介護連携セミナー、人権研修
1	排泄介助研修会（オムツ講座）
2	居宅介護支援事業所部会研修、事例検討会（MCS 活用の実例紹介）
3	事例検討会の進め方について、歩行器研修会 中地域委託先介護支援専門員研修

地域包括支援センター

月	研修内容
4	高次脳機能障害事例検討会
5	認知症研修（認知症サポーター在宅部門職員向け） 救護施設「フローラ」研修
6	障がいサービス研修、福祉用具研修会
7	精神疾患研修
8	オレンジメンバー研修、栄養士研修 意思決定支援研修、認知症研修（認知症サポーター養成講座担い手対象）
9	障がいサービス向け介護保険研修、虐待研修（在宅向け）
１０	事例検討会、不適切ケア研修
１１	コミュニケーション研修、CSW 研修
１２	人権研修・認知症フォーラム 認知症研修（認知症サポーター養成講座事業所向け）
1	むつき庵おむつ研修
2	歩行器研修会
3	民生中第一地区研修会

全体研修（運営会議等で実施）

月	研修内容
１２	虐待研修（法定研修）（身体拘束から人権侵害を考える）

地域包括支援センター事業実績報告書

令和5年度年間合計	センター名	みのわの里

今年度新規相談実人員	442

相談件数

実態把握加算対象	1521
加算対象外件数	
相談件数合計	1521

認知症相談件数	180

権利擁護関係件数	29
うち虐待関連件数	30

相談者と相談方法

本人	家族	CM	その他	計
98	197	31	1197	1521

訪問	来所	電話	計
1476	45		1521

家族形態

同居	独居	計
977	544	1521

身体状況

不明	未申請	申請中	自立	要支援 1	要支援 2	要支援計
	250	145	11	575	452	1027
総合事業	要介護度 1	2	3	4	5	要介護計
33	35	8	4	6	2	55
					計	1521

相談内容及び申請代行

	介護保険	介護	福祉サービス	保健医療	家族関係
相談内容	1520	1519	6	44	65
申請代行	85				

	介護予防	基本チェック	その他	計
相談内容	4	1	101	3260
申請代行				85

サービスの状況と利用希望

	ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ
現利用									
新規利用希望	46	193	49	21	1	116	6	23	38

	配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中	計
現利用										
新規利用希望	3	55	30	129				2		712

単位地域ケア会議

会議出席者	介護支援専門員	サービス事業者	医師
	医療機関職員	自治会	民生委員
	校区福祉委員	老人クラブ	知人
		初回	最終
単位地域ケア会議加算対象			

地域ケア支援・生活支援コーディネーター内訳

相談方法

訪問	来所	電話	FAX等	計
1		4	7	12

地域ケア支援個別加算対象	12
地域ケア支援集団加算対象	76

相談者

虐待	施設的
10	

生活支援集団加算対象	5

	介護支援専門員	サービス事業者	主治医	医療機関職員	関係機関	学校機関	NPO法人
地域ケア(個別)	1				6		
地域ケア(集団)	7	25			2		
生活支援(集団)							

	ボランティア	自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	その他	計
地域ケア(個別)							7
地域ケア(集団)		2	15	6	18		75
生活支援(集団)		2			3		5

認知症支援

認知症カフェ(主催)	認サポ・認相談カフェ(その他)	うち(他カフェ)	認知症本人活動支援(個別)	認知症本人活動支援(集団)	計
12	3	1			15

高齢者生活支援等会議

地域活動団体 自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	福祉・介護職 居宅介護支援	訪問介護	通所介護
2	3	3	3	2	1	2

医療機関 医師	歯科医師	薬剤師	その他	計
3	3	2		24

高齢者生活支援等会議加算対象	3

実施した支援・内容

	地域ケア支援(個別・集団) ケアマネジメント支援	ソーシャルワーク機能	情報提供	連携支援	その他	計
個別	1		7	3	6	17
集団	3		29	8	35	75

	生活支援コーディネーター活動(集団) 生活支援の担い手の活動状況確認	生活支援の担い手養成支援	総合事業の制度説明等	取組の事例発表	計
集団	2	3			5

第1層への課題提示

第1層への課題提示加算対象	

地域介護予防推進事業等実績報告書（集計表）

令和5年度年間合計

支援センター名	みのわの里

地域介護予防活動支援

相談・支援件数

総件数	うちグループ活動支援
3	3

グループ種別

老人クラブ	校区福祉委員会	自治会	老人Cボランティア	その他	計
				3	3

相談方法

訪問	来所	電話	その他	計
2			1	3

教室実施状況

開催件数

介護予防教室開催件数	45
家族介護教室開催件数	5

特別養護老人ホーム　布市福寿苑　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

（１）経営状況の分析や対策、事業計画の進捗状況を毎月会議で検討と実践をしているかを確認し、既存のサービスの見直しを行って参りましたが、殆どの事業が当初予算収入に達することが出来ず、安定した財務基盤の回復までにはいたりませんでした。

その中でも出来うる限りの支出の削減の管理や収入改善に取り組み、令和６年度の介護保険改定に向けて新たな加算算定要件等を調べながら改定後の準備をいたしました。

（２）福祉サービスの質の向上をするために、人員体制の整備し、採用計画に基づいた配置を目指しましたが採用計画の配置にはいたりませんでした。

また、介護士以外の専門職の配置が追い付かず、事業の運営に大きな影響があった１年となりました。

福祉に求められる職員像としての人材育成は、全職員の人事考課を実施し可能な限り研修等の開催や参加により研鑽いたしました。

（３）災害計画による地域の方々参加の災害訓練等や運営推進会議等により、地域の方々と可能な限り交流する機会を持ちました。

現在の地域課題をお伺いすることができ、今後の地域活動に向けての意見交換をいたしました。

また災害ＢＣＰや感染ＢＣＰの見直しも実施いたしました。

（４）当法人内の事業所と情報共有を行い、新たな加算の取得をすることで、ご入居者やご利用者に対してのサービスの質の向上をいたしました。

記録等については介護ケア記録システム（ブルーオーシャンシステム）や資料の紙媒体からデーター保存へ変換するなど業務効率の改善に取り組みをいたしました。

（５）子育て支援の地域団体から相談を受けて１０月にハロウィン行事を共同で開催する等、新型コロナ感染状況を随時確認しながら相談しやすい拠点づくりを行いました。

【２】数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠　点	目標	—	100.0%	68.0%	25.9%	3.0%	3.0%
	実績	—	94.1%	72.5%	25.3%	3.1%	△1.1%
特　養	目標	95%	100.0%	63.6%	30.7%	4.2%	1.5%
	実績	84.1%	94.3%	66.2%	29.8%	4.4%	△0.5%

短期入所	目標	87%	100.0%	57.5%	21.0%	0.5%	20.9%
	実績	72.4%	86.7%	68.2%	23.0%	0.5%	8.0%
通　所	目標	75%	100.0%	65.9%	19.3%	2.6%	12.3%
	実績	73.4%	95.3%	76.6%	19.1%	2.1%	2.0%
認知通所	目標	55%	100.0%	104.1%	18.2%	0.1%	△22.5%
	実績	44%	85.3%	117.2%	19.2%	0.1%	△36.7%
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ	目標	98%	100.0%	75.6%	25.8%	3.0%	△4.4%
	実績	98.4%	101.4%	72.9%	22.9%	2.9%	1.0%

居宅介護	目標	1848人 1人38.5	100.0%	91.2%	6.4%	1.4%	0.9%
	実績	1716人 1人33.9	92.2%%	103.4%	5.9%	1.5%	△12.0%
介護予防	目標	3040件 50.6件	100.0%	36.4%	46.1%	3.0%	14.4%
	実績	3008件 50.1件	100.9%	36.3%	44.8%	3.0%	15.8%
地域包括	目標	127件	100.0%	107.2%	12.6%	0.4%	△20.1%
	実績	190件	101.9%	99.3%	11.3%	0.2%	△11.0%

【３】事業計画の実施状況

（１）特別養護老人ホーム（短期入所生活介護を含む）

①空床期間短縮のため、入所申込みがあった際は早急に面談をいたしました。すぐに入所に繋げない場合は短期入所利用の提案や法人内老健の紹介をいたしましたが、入所をスムーズに進めることが出来ずに目標稼働率にいたりませんでした。

引き続き、短期入所相談員と連携を図り取り組んでまいります。

また、加算に関しては該当の方がいなかったこともあり、新たな加算を算定するまでには至りませんでした。

②人材採用が思うように進まず、多数の職員が一度に参加する研修の実施ではありませんが、各委員会より内部研修は定期的に行い、職員の意識の向上に繋ぐことが出来ました。

引き続き職員の意識の向上、スキルアップいたします。

③看護師を中心にエアマットの使用状況などを都度精査をしながらケアを実施した結果、ご入居者の大きな皮膚トラブルなく生活していただきました。

また、褥瘡委員会で褥瘡予備軍などを明確にすることで職員も意識ができるよ

うになりましたが、加算算定にはいたりませんでした。

（２）通所介護

①新規のご利用者にほぼ個別機能訓練を開始する事ができ、ご利用者のＡＤＬの維持をいたしましたが向上までにはいたらなかったので、次年度はご利用者のＡＤＬ向上を目指します。

②毎月の内部研修を計画的に実施いたしました。

次年度は介護技術の入浴介助について取り組んでまいります。

（３）認知症対応型通所介護

①感染対策を行いながら、グループホームとの外出行事や合同行事を実施いたしました。

また日新高校のさくら祭りや枚岡章風高校の文化祭にも参加していただき交流いたしました。

運営推進会議は中止することなく予定通り開催し、ご家族にもご参加していただきました。

②園芸活動や施設通貨での買い物を計画的に実施いたしました。

ご利用者と相談しながら、お持ち帰りの作品作りを沢山実施いたしました。

グループホームとの合同行事で交流を楽しんでいただきました。

（４）居宅介護支援事業所

①地域からの相談に迅速に対応できるように、事業所内で現状の情報を共有し、近隣の地域包括支援センターと連携を図り、地域のニーズに応えてまいりました。

②今年度も感染症予防により、面会制限はあったものの、医療機関からの退院や施設からの退所の際に、医療系介護サービスとの連携により重度の方でも在宅復帰支援をいたしました。

③事業所内で定期的に会議を開催し、支援方法に悩むケースの相談や検討をいたしました。

相談援助のスキルアップのため、外部研修、ＷＥＢ研修など積極的に参加し、研修で学んだことを事業所内で伝達し自己研鑽いたしました。

④他法人と合同勉強会で地域のケアマネージャーとのつながりも大切にし、地域の社会資源の情報共有をいたしました。

また、今年度も地域包括支援センターの事例検討会にも多く参加し、ＣＭのスキルアップにもつながりました。

（５）地域包括支援センター

①地域包括支援

・第２層協議体会議について、今年度もコロナ禍であり感染拡大時は開催を見合わせながらも、高齢者生活支援等会議は４回開催いたしました。

第２層生活支援コーディネーターとして地域の課題抽出をいたしました。

来年度も、福祉・介護専門職の方々の任期継続が決定しており、今まで取り組んできた会議での課題と新たな課題を話し合い、地域で対応し解決できるよう取り組んでまいります。

・認知症についての理解を促進するため、認知症サポーター養成講座は４回開催し、近隣神社のお祭りで地域の方向けに開催することができ、子どもと一緒に子育て世代の方たちも参加してくださいました。

きっずサポーター養成講座は２回開催し、初めて小学校で開催でき、中学校では昨年に引き続き開催し、ロボットのペッパー君を使用して、児童生徒教員の興味を引き、好評を得ました。

来年度も、小中学校と実施可能な時期に開催を相談検討いたします。

・今年度、居宅介護支援事業所や病院ＭＳＷ、民生委員から、家族の介護力問題や生活困難の相談が増えており、警察からは、認知症支援対象高齢者情報もあり、多種多様の相談について速やかに対応支援いたしました。

また、警察から特殊詐欺が増えて来ているので特殊詐欺防止啓発の依頼があり、地域の方々に向けて啓発活動を行いました。

・多職種連携研修会においては、今年度はオンラインと会場のハイブリッドで開催し、居宅介護支援事業所や介護事業所、調剤薬局から多数の参加があり、学びの機会をつくり、多職種間の情報共有を図りました。

・地域の会館をお借りし、介護予防教室・家族介護教室を開催し、地域の介護予防等に努め、また、地域のサロンやグループ活動の後方支援もいたしました。

②介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援

今年度も事業計画通り、ほぼ実施できました。

目標の数値も超えることができ、引き続き介護予防サービスや介護予防・生活支援サービスなど自立支援に向けて必要なサービス調整を行ってまいります。

（６）グループホーム布市真寿庵

①ご入居者、ご家族の意思に沿った計画作成を基本とし、そのプランに対しモニタリングや会議の場でその人のニーズや目標を職員、多職種と共有し、いつまでも安心した生活を送れるように取り組んでまいりました。

また、職員一人ひとりが認知症について正しく理解できるよう、認知症の研修を実施いたしました。

②２ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、ご入居者の生活状況やご意見・ご要望等の収集いたしました。

子ども支援グループ主催のハロウィンイベントや地域のだんじり、枚岡樟風高校の文化祭にも参加させていただき、地域交流にも積極的に参加いたしました。

また、外出支援や行事にも取り組み、充実した生活を送れるよう支援いたしました

③主治医や医療連携看護師等、多職種と情報共有を行い、ご入居者の心身の状態の把握に取り組み、入院者が２名ありましたが重症化されることなく退院されました。
また、待機者確保にも努め、ご退居された際も、次のご入居まで円滑に支援した結果、稼働率９８％の目標を達成いたしました。

【４】施設の課題

（１）財務基盤の安定化と運営体制

・収入は殆どの事業運営が停滞した１年となりました。
介護士やその他の専門職の配置不足に対して必要配置が追い付かず、各々の業務の役割分担や業務内容の整理が出来ずに至りました。
早期に必要配置や業務の役割分担や業務内容の整理を実施して、引き続き事業計画に沿って改善に務めてまいります。

・支出は予算に対して法人の経費削減対策や、業務改善と並行して施設内でも見直した結果、予算よりも支出を削減いたしました。
引き続き事業計画に沿って改善に務めてまいります。

（２）人材採用・育成

・法人の採用施策の実施や拠点内の採用活動を実施いたしましたが、採用計画に基づいた配置に至らない状況が続いた１年となりました。
育成については全職員の人事考課の実施や、前年度と比較して研修機会はＷＥＢ研修の実施に加え、対面研修の参加も多く設け、運営基準に則した研修も順調に実施いたしましたが、法人や拠点が求める職員像の研修等や自己研鑽による研修等の時間を設けることが出来ない部署もあり課題となりました。

（３）地域課題

・地域密着型の運営会議や自治会長、地域住民等から新型コロナ禍から現在の地域の状況について話しを伺った結果、一部の地域グループは地域活動を再開されていますが、地域住民同士の関りが少なくなったことや地域住民自体が高齢化していき活動範囲が狭くなったことを地域課題としてお聞きしました。
今後、拠点の地域活動について新たな取り組みが必要となりました。

【５】付表

（１）年間行事

特別養護老人ホーム

<table>
<tr><th>月</th><th>行事内容</th><th>委員会活動</th></tr>
<tr><td>４</td><td>・日新高校桜まつり（４月１日）</td><td rowspan="10">・広報委員会（必要時）
・給食委員会（３ヶ月１回）
・環境美化委員会（必要時）
・防災災害委員会（必要時）
・車輌・事故管理委員会（必要時）
・感染予防委員会（３ヶ月に１回）
・褥瘡委員会（２ヶ月に１回）
・苦情検討委員会（３ヶ月に１回）
・事故対策委員会（月１回）
・職場研修担当者会議（必要時）
・入所判定委員会（月１回）
・衛生委員会、ハラスメント対策委員会（月１回）
・身体拘束廃止委員会（月１回）
・社会貢献推進委員会（必要時）
・看取り委員会（月１回）
・虐待防止委員会（３ヶ月に１回）</td></tr>
<tr><td>５</td><td>・春の外出（中止）
・母の日行事（中止）
・ＤＶＤ鑑賞会（中止）</td></tr>
<tr><td>６</td><td>・春の外出（中止）
・父の日行事（中止）</td></tr>
<tr><td>７</td><td>・花火大会（中止）</td></tr>
<tr><td>８</td><td>・夏祭り（７月２５・２７日）</td></tr>
<tr><td>９</td><td>・敬老祝賀会（９月１６日）</td></tr>
<tr><td>１０</td><td>・秋の外出（中止）
・ハロウィン（中止）</td></tr>
<tr><td>１１</td><td>・ファミリー祭り（中止）</td></tr>
<tr><td>１２</td><td>・ゆず湯（１２月２２日、２３日）
・クリスマス会（１２月２３日）</td></tr>
<tr><td>１</td><td>・元旦祝賀会（中止）
・初詣(中止)</td><td rowspan="4">クラブ活動等
・ヨガクラブ（毎月）
・誕生日会(毎月)
・訪問販売(毎月)
・ホーム喫茶（月・木・金のみ）</td></tr>
<tr><td>２</td><td>・節分（中止）
・バレンタイン（中止）</td></tr>
<tr><td>３</td><td>・ひなまつり（中止）</td></tr>
<tr><td colspan="2">※誕生会食は毎月提供しています。</td></tr>
</table>

※行事の中止はコロナ感染拡大防止のため。また、各種委員会、クラブ活動等においても同様の理由で中止になっている期間があります。

通所介護

月	行事内容
4	花見・新緑ドライブ・お楽しみ会・季節食
5	キャベツ焼き・お楽しみ会・季節食
6	運動会・お楽しみ会・季節食
7	ビアガーデン・お楽しみ会・季節食
8	夏祭り・お楽しみ会・季節食
9	敬老会・お楽しみ会・季節食
１０	買い物ツアー・お楽しみ会・季節食
１１	焼き芋・お楽しみ会・季節食
１２	クリスマス会・お楽しみ会・季節食
1	ぜんざい・お楽しみ会・季節食
2	ベビーカステラ・お楽しみ会・季節食
3	おやつバイキング・お楽しみ会・季節食

グループホーム

月	行事内容
4	日新高校花見、花園公園花見（認デイ交流）、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室
5	ピクニック、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室
6	中石切公園散歩（認デイ交流）、運動会（認デイ交流）、クラブ活動（２回）、お誕生日会、理美容、ヨガ教室
7	七夕祭り、お誕生日会、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室
8	夏祭り（認デイ交流）、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室
9	皆で巻き寿司（認デイ交流）、敬老会、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室
１０	焼き芋の会（認デイ交流）、ハロウィンイベント（地域交流）、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室、
１１	樟風高校文化祭（地域交流）、紅葉外出、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室
１２	クリスマス会、お誕生日会、クラブ活動（２回）ヨガ教室、理美容
1	元旦祝賀会、布市幸福神社参拝（認デイ交流）、お誕生日会、クラブ活動、ヨガ教室、理美容
2	節分、お誕生日会、クラブ活動（２回）、ヨガ教室、理美容
3	パンケーキの会（認デイ交流）、石切神社外出、お誕生日会、クラブ活動（２回）、理美容、ヨガ教室

（2）防災訓練

月	訓練内容
4	新規職員を対象とした消火器の取扱い、水消火器を使用した消火活動訓練（中止）
5	災害時事業継続活動（BCP）に基づく災害時訓練（中止）
7	緊急連絡網を使用し、全職員への連絡を行う訓練（中止）
9	（消防署立ち合い）特養・GH職員と入所者を対象とした通報、消火、避難訓練（２月へ延期）
１１	災害時事業継続活動（BCP）に基づく災害時訓練（３月へ延期）
1	緊急連絡網を使用し、全職員への連絡を行う訓練（中止）
1	夜間帯における火災の発生を想定した通報・避難訓練
2	（消防署立ち合い）特養・GH職員と入所者を対象とした通報、消火、避難訓練
3	HUG（避難所運営ゲーム・学校バージョン）を用いた、災害想定シミュレーション

※コロナ感染拡大防止のため、年間計画から変更した内容になっています。

（3）研修

特別養護老人ホーム

月	研修内容
4	喀痰吸引研修
5	感染対策セミナー
6	感染症・食中毒予防対策講習 SARAYA感染症セミナー（5類に向けての対応） 高齢者施設で取り組む褥瘡管理
7	不適切ケアについて 高齢者虐待研修
8	特定給食講習会 東大阪市集団給食研修会
9	栄養士・調理師研修会
１０	高齢者の権利擁護・人権研修 調理員研修会 感染症予防委員会研修 東大阪市集団給食研修会 食事形態の選択・変更のタイミングと食事ケア
１２	社会福祉施設等で勤務する看護職対象感染対策研修 COVID-19クラスター対策講演会
1	介護の生産性向上見学会 身体拘束ゼロ推進員養成研修
2	口腔ケア研修
3	HUG 特定給食講習会 養介護従事者等による高齢者虐待防止研修会 とろみ調理食品の基礎知識と適切な使用に向けて 夜間救急時の対応について リスクマネジメント研修会

通所介護

月	研修内容
4	高次機能障害に関する研修
5	介護技術に関する研修
6	食中毒に関する研修
7	虐待防止に関する研修
8	人権
9	事故発生時の対応
１０	権利擁護・成年後見
１１	認知症対応
１２	倫理法令
1	サービス向上についての研修
2	虐待防止に関する研修
3	身体拘束防止研修

グループホーム

月	研修内容
4	認知症ケア研修 業務継続計画についての研修（BCP について）
5	身体拘束適正化の為の研修
6	事故防止・リスクマネジメント研修（緊急時及び事故の対応） 感染症の基礎知識と対策 感染症研修（SARAYA 感染対策 Web セミナー）
7	高齢者虐待研修
１０	高齢者虐待防止研修（基本的人権・権利擁護・不適切ケア） 身体拘束適正化の為の研修（不適切ケアの事例） 緊急時の対応研修
2	高齢者虐待防止・身体拘束適正化の為の研修（新人職員）
3	HUG 災害シュミレーション訓練研修 苦情処理に関する研修 人権研修

地域包括支援センター事業実績報告書

令和5年度年間合計

センター名	布市福寿苑

今年度新規相談実人員	484

相談件数

実態把握加算対象	1477
加算対象外件数	2
相談件数合計	1479

認知症相談件数	145

権利擁護援助件数	42
うち虐待関連件数	31

相談者と相談方法

本人	家族	CM	その他	計
235	275	67	922	1499

訪問	来所	電話	計
1410	62	7	1479

家族形態

同居	独居	計
1002	478	1480

身体状況

不明	未申請	申請中	自立	要支援		要支援計
				1	2	
	267	35	22	563	350	913
総合事業	要介護度					要介護計
	1	2	3	4	5	
122	67	34	6	8	2	118
					計	1031

相談内容及び申請代行

	介護保険	介護	福祉サービス	保健医療	家族関係
相談内容	1413	127	36	30	39
申請代行	197		2		

	介護予防	基本チェック	その他	計
相談内容	38	3	369	2055
申請代行				199

サービスの状況と利用希望

	ホームヘルプ	デイサービス	デイケア	ショートステイ	訪問入浴	福祉用具	訪問診療等	訪問看護	訪問リハビリ
現利用									
新規利用希望	34	142	10	7		62		7	19

	配食	住宅改修	入所	予防プラン	生活援助	短時間	助け合い	つどい	短期集中	計
現利用										
新規利用希望		49	5	122		1		17	1	476

単位地域ケア会議

会議出席者	介護支援専門員	サービス事業者	医師
	医療機関職員	自治会	民生委員
	校区福祉委員	関係機関	知人

単位地域ケア会議加算対象	初回	最終

地域ケア支援・生活支援コーディネーター 内訳

相談方法

訪問	来所	電話	FAX等	計
9	1	21		31

相談者	虐待	重層的
	19	

地域ケア支援個別加算対象	31
地域ケア支援集団加算対象	53
生活支援集団加算対象	46

	介護支援専門員	サービス事業者	主治医	医療機関職員	関係機関	学校機関	NPO法人
地域ケア(個別)	5			5	21		
地域ケア(集団)	4	19			2		
生活支援(集団)							

	ボランティア	自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	その他	計
地域ケア(個別)							31
地域ケア(集団)					6	19	50
生活支援(集団)						51	51

認知症支援

認知症カフェ(主催)	認ザポ・認知症カフェ(その他)	うち(他カフェ)	認知症本人活動支援(個別)	認知症本人活動支援(集団)	計
	6				6

高齢者生活支援等会議

地域活動団体				福祉・介護職		
自治会	校区福祉委員	民生委員	老人クラブ	居宅介護支援	訪問介護	通所介護
4	4	4	3	2	3	4

医療機関				
医師	歯科医師	薬剤師	その他	計
3	2	4	4	37

高齢者生活支援等会議加算対象	3

実施した支援・内容

	地域ケア支援(個別・集団)					
	ケアマネジメント支援	ソーシャルワーク援助	情報提供	連携支援	その他	計
個別		3	3	4	20	30
集団			52		3	55

	生活支援コーディネーター活動(集団)				
	生活支援の担い手の活動状況確認	生活支援の担い手養成支援	総合事業の制度説明等	取組の事例発表	計
集団	62				62

第1層への課題提示

第1層への課題提示加算対象	

地域介護予防推進事業等実績報告書(集計表)

令和5年度年間合計

支援センター名	布市福寿苑

地域介護予防活動支援

相談・支援件数

総件数	うちグループ活動支援
36	15

グループ種別

老人クラブ	校区福祉委員会	自治会	老人Cボランティア	その他	計
				36	36

相談方法

訪問	来所	電話	その他	計
36				36

教室実施状況

開催件数

介護予防教室開催件数	50
家族介護教室開催件数	6

介護老人保健施設　枚岡の里　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

令和５年度事業運営を振り返り、５つの施設方針の下、地域における枚岡の里の役割が果たせるように施設入所サービス、短期入所療養介護の事業を行いました。

令和５年度は、高齢者福祉の本質を考え直すこととし、ご利用者の「人権」や「幸福」「安心できる生活」を念頭においてサービスの展開に努めてまいりました。

「人権」については、研修を通して学びを深め、ご利用者への尊厳と敬愛の気持ちをもって関係の構築に努めました。

その中で、ご利用者のサービス向上、処遇改善を前提として、幾度となく各専門職で検討を重ね、ご利用者の「幸福」を追求しました。

意見や思考の相違等があり、新たな取組みや活動には至らず、ご利用者やそのご家族に十分に満足いただける結果を出すことが出来ませんでした。

また「安心できる生活」という点におきましても、年々減少傾向にあった事故件数が増加に転じ、比例して重大事故が増えました。

その他、感染症によるクラスターが発生する等心配とご迷惑をお掛け致しました。

一方で、コンプライアンスを徹底し、透明性のある事業運営を展開出来たとことや、感染症や災害への備えを強化出来たことは、安全と安心に繋がるのではないかと考察します。

課題を残す一年となりましたが、職場環境作りや育成においては成果を感じることができました。

この先も社会福祉の基本理念に基づいて、ご利用者に喜んでいただける施設作りに努めます。

【２】数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
老　健	目標	94.0%	100%	59.0%	26.7%	9.1%	5.2%
	実績	91.4%	101.1%	58.5%	24.5%	6.7%	10.3%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【３】事業計画の実施状況

（１）在宅復帰率の向上を計画し、目標値を２０％に設定しましたが、目標は達成できず１１．８％と低迷しました。

入所前後訪問指導後は、その内容を専門職で共有し、ケアカンファレンスで在宅復帰に向けた検討、調整を行いましたが、入院による退所者が増加したことや、レスポンスの遅れ等が生じたことが低迷する要因になりました。

（2）加算取得に関して計画し、４月からは在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）の算定を再開し、２月には科学的介護推進体制加算（Ⅱ）の算定を開始しました。

加算の算定にあたり、在宅復帰・在宅療養支援機能加算では、計画的且つ継続的に取組みを行うこと、要介護状態の適性評価、専門職の配置に注力しました。

また科学的介護推進体制加算では、担当者と役割を明確にし、管理、チェックする体制を整えました。

（3）人権を守り、虐待を発生させない組織風土作りを行うため、虐待防止委員会を立ち上げ、４月から活動を開始しました。

２カ月に一度委員会を開催し、指針や通報窓口の整備を行いました。

また研修内容を協議、検討し、実施しました。

研修では、虐待の具体的行為や発生要因などについてディスカッションを行いました。

（4）ご利用者のＱＯＬの向上を目的として、行事やクラブ活動、レクリエーションの質を見直しました。

新しい取組みや活動には至りませんでしたが、既存の行事やクラブ活動は１年を通して実施出来ました。

レクリエーションにおいては、バリエーションを増やしたことで、ご利用者の希望に沿った活動が提供出来ました。

また面会や外出、外泊に関して制限を緩和することで、ご家族と過ごす時間を大切にしました。

（5）非常災害時の備えとして、事業継続計画の見直しと訓練を定期的に行いました。

６月は土砂災害が発生したことを想定し、垂直移動訓練や水平移動訓練、情報伝達訓練を行いました。

また３月には併設する特別養護老人ホームと合同で、地震が発生したことを想定したＢＣＰ訓練を行いました。

（6）職場環境や育成方法の見直しを計画しましたが、Ｏｆｆ－ＪＴがわずかに増加しただけに留まり、人材の定着など特筆すべき結果には現れませんでした。

一方で、これまで取組んできたＯＪＴの効果等もあり、一定の職員が新人教育をはじめ、多様な場面で新たに役割を担いました。

（7）短期入所療養介護では、特にレスポンスの速さを心掛け、迅速且つ丁寧にご対応させていただくことに努めました。

またご利用中のサービスにおいては、自宅での生活を長く継続することを想定し支援すると共に、ご利用者又はご家族の希望に沿うことが出来るように努めました。

【４】施設の課題

今年度は早々からコロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、厳しい始まりとなりました。

試行錯誤をしましたが、稼働状況は思うように回復せず、前年度を大きく下回る結果となり、目標を達成することが出来ませんでした。

今後は稼動回復、維持へ向けた各専門職の取組みや体制作りが求められます。

そのためには、これまでとは異なる発想と思考の転換を行い、改めて施設方針や施設目標を共有し、専門性を発揮しなければなりません。

また、安定した運営を行うには職員の確保、育成、定着を図ることが重要と考えますが、確保することが困難である昨今、職場環境や育成の在り方についてはまだまだ課題があります。

次に在宅復帰への考え方や行動についても次年度は変化が必要です。

これまで上昇傾向にあった在宅復帰率が低下しました。

その原因には様々ありますが、在宅強化型を見据えた準備や行動が出来ていなかったことにありますので次年度は重点を置いて努めてまいります。

最後は地域との関わりへの課題です。

コロナウイルス感染症流行を機に健康教室等の開催が滞っている現状にあり、地域のお役に立つ活動が出来ていません。

緩和された中、当施設と地域との関り、地域の中における当施設の役割について考えていかなければなりません。

【５】付表

（１）年間行事

月	行事内容
4	花見行事・里喫茶・誕生日会
5	おやつ行事・料理クラブ・里喫茶・誕生日会
6	食事行事・里喫茶・誕生日会
7	七夕行事・料理クラブ・里喫茶・誕生日会
8	夏祭り・料理クラブ・誕生日会・里喫茶
9	敬老祝賀会・食事行事・料理クラブ・誕生日会・里喫茶
１０	ハロウィン・料理クラブ・里喫茶・誕生日会
１１	おやつ行事・料理クラブ・里喫茶・誕生日会
１２	クリスマス会・料理クラブ・里喫茶・誕生日会
1	元旦祭・料理クラブ・里喫茶・誕生日会
2	節分行事・料理クラブ・里喫茶・誕生日会
3	おやつ行事・料理クラブ・里喫茶・誕生日会

（２）防災訓練

月	訓練内容
5	自然災害訓練（情報伝達訓練・避難訓練）
6	消火訓練・ＢＣＰ訓練（感染症）
9	日中想定避難訓練
１２	ＢＣＰ訓練（感染症）
2	３施設合同夜間帯想定防災訓練（通報・避難・消火訓練）
3	ＢＣＰ訓練（自然災害）

（3）施設内研修

月	研修内容
4	人権・身体拘束廃止研修
5	食中毒予防研修
6	認知症キャラベンメイト養成講座・口腔研修・ハラスメント研修
8	救急救命講座
１０	人権研修・身体拘束廃止研修・安全対策研修
１１	感染症対策研修・サービスマナー研修
１２	感染症対策研修・褥瘡対策研修・介護保険制度研修
1	認知症研修
2	ＢＣＰ（自然災害）研修・虐待防止研修・口腔ケア研修
3	安全対策研修
入職時	感染症研修・身体拘束及び虐待研修　安全対策研修　ＢＣＰ研修

（4）施設外研修

月	研修内容
5	集団施設における感染症対策
7	栄養士研修会
8	成年後見人講座
9	認知症ケア研修・安全推進セミナー
１０	リスクマネジメント研修
１２	人権・身体拘束廃止研修・管理職研修
1	医療的ケア教員講習会
2	入退所支援研修・管理職研修
3	高齢者虐待防止研修会

介護老人保健施設　長田の里　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

今年度は新型コロナウイルス感染症が５類に引き下げられましたが、引き続き感染予防を第一に日々の事業運営に取組んでまいりました。

しかしながら、当施設では２度のクラスターが発生し、ご利用者・ご家族及び地域の皆さまにご心配とご迷惑をお掛けすることとなりました。

質の高いサービスを提供できるように人材育成に注力してまいりました。

各専門分野の知識・技術を他職種が学べるような職員研修の実施はもちろん、コンプライアンスや高齢者虐待予防研修に力を入れてまいりました。

包括ケアを目指し、介護老人保健施設としての機能向上、地域関連機関との連携強化を進めていきましたが、まだまだ新型コロナウイルス流行前の状態には戻れていないのが現状であり、今後の大きな課題となります。

今後想定される感染症や災害時でサービスを提供し続けていけるように、ＢＣＰ（事業継続計画）の見直しを実施しいたしました。

当施設が有する３つの機能「入所サービス」「通所サービス」「居宅介護支援サービス」の連携をより強化することで、必要な時に必要なサービスを提供できるように努めてまいりました。

【２】数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠　点	目標	—	100%	64.3%	27.7%	4.0%	4.0%
	実績	—	97.1%	66.4%	25.2%	4.2%	4.2%
老　健	目標	94.0%	100%	62.2%	30.6%	4.6%	2.6%
	実績	90.9%	98.2%	63.3%	27.8%	4.8%	4.1%
通　所	目標	75.0%	100%	70.7%	21.1%	2.0%	6.2%
	実績	66.3%	91.7%	76.6%	19.1%	2.0%	2.2%
居宅介護	目標	2154人 1人38.5	100%	77.1%	4.2%	0.9%	17.8%
	実績	2352人 1人35.7	95.3%	85.8%	4.0%	1.0%	9.2%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【３】事業計画の実施状況

（１）介護老人保健施設

①介護老人保健施設の機能と特色を活かし、在宅復帰に向けての支援を強化します。（目標：在宅復帰率２０％）

実施状況

入所される場合には入所前後に自宅を訪問し、ご利用者及び家族の希望・ご利用者の能力を把握、在宅復帰に係る目標を設定し、多職種のもと施設サービス計画を策定してまいりました。

また、積極的に多職種で利用者のご自宅を訪問・個別カンファレンスを実施し、在宅生活を想定したリハビリを実施してまいりました。

年間の在宅復帰率については、２１．５％となり、目標数値を達成しました。

②介護老人保健施設として安定した経営を継続していくために、各種活動を実施いたします。

実施状況

より多くの方に入所していただけるように、ベッド回転率５％と稼働率９４％を目標として取り組んでまいりました。

新型コロナウイルスが５類移行に伴い、積極的に関連機関への訪問を行い、情報収集や営業活動を行いました。

リハビリや食事など施設での生活の様子をブログや動画などで可視化するなど情報発信に力を入れてまいりました。

その結果、ベッド回転率は７．０％と目標を達成することができました。

稼動率につきましては、上半期は目標を超える９４．７％でしたが、上半期は新型コロナクラスターの影響もあり大きく稼働率を下げることとなり、結果として年間稼働率は９０．９％で目標を達成することができませんでした。

③ご利用者の健康管理に努めます。

実施状況

令和６年２月から３月にかけて大きなクラスターが発生いたしました。

多くの罹患されたご利用者を施設内で看させていただくこととなりました。

その中で重症化されたご利用者はおられず、治癒後の生活への影響を最小限に留めることができました。

この経験をもとに感染症について、常に新たな情報を取り入れ、感染症予防に係る体制及びマニュアルの整備・ＢＣＰの見直しを行い、更なる感染症予防に努めております。

④地域福祉の拠点となるような包括的なサービスの提供に努めます。

実施状況

併設の居宅介護支援事業所・通所リハビリテーションとの連携強化を図り、

ニーズに合わせて包括的なサービスの提供を行えるように取り組みました。
結果として、施設を退所後に通所リハビリテーションをご利用いただくなど、併設事業一体となったサービスを提供することができています。

⑤ご利用者が安心安全に施設生活を過ごしていただけるよう、生活環境を整えていきます。

実施状況

地域との交流や外部ボランティアを招いての行事の再開はできておりませんが、１０月に地域で開催された秋祭のだんじり見学を実施いたしました。
行事に関しましては、大規模なものは行えませんでしたが、感染症対策を行ったうえで、徐々に行事も多様で楽しんでいただける企画を立案・実施いたしました。

⑥安全で快適な食事の提供に努めます。

実施状況

毎月、委託給食会社と合同の会議を開催し、連携を図りながら行事の企画や季節感を大切にしたメニューなどを検討し、ご利用者に満足していただけるように努めました。
また、衛生管理の徹底を図り、異物混入ゼロに努めました。

⑦施設職員の職務能力の向上と意識改革を行い、ご利用者の意向に寄り添ったサービスを提供します。

実施状況

職員のスキルアップのため月１回実施しております職員研修は、グループでの事例検討や実技指導を多く取り入れ、職員のスキルアップを図り、ご利用者・ご家族に安心していただけるような質の高いサービス提供が行えるよう努めました。
また、高齢者虐待防止やコンプライアンス研修にも注力し、職員の意識改革・風土改善に取り組みました。

⑧ご家族とご利用者の繋がりを大切にします。

直接面会につきましては、時間や回数など制限はあるなかではありますが、ご利用者への感染を防ぐことを第一としていることをご家族にもご理解いただき、実施することができました。
また施設生活のご様子をお伝えするために、行事などの写真をご家族に送付や積極的なブログの更新を行うことで、お元気な姿を見ていただきご安心いただけるように努めてまいりました。

（２）通所リハビリテーション

①心身機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法・作業慮法、その他必要なリハビリを提供し、介護・看護・療法士など多職

種でご利用者の生活を支援していきます。

実施状況

ご利用者ごとに生活目標を聴取し在宅生活の継続が行えるようにリハビリ・機能訓練の内容の検討を行い実施してまいりました。

生活動作の中で特に多いニーズに排泄動作訓練があります。

事例として、車椅子の方が一人でトイレに行く事が出来る事を目的に、バランスや下衣の上げ下げを中心とした計画立案と訓練実施し、３か月ごとの評価を多職種が協働して行いました。

その結果、施設にて自宅環境を想定した中で、見守りレベルでトイレを行う事が出来るようになり、在宅生活の中で出来る事が増える喜びを実感して頂けたことが挙げられます。

担当ケアマネジャーとの連携強化に努めてまいりました。

継続して在宅生活を送って頂けるよう、少なくとも月１回は担当ケアマネジャーに、ご利用者の通所計画の達成状況や心身の変化等を報告や必要に応じて福祉用具の変更などの助言を行いました。

②職員のスキルアップ及び人材育成に取り組みます。

実施状況

勉強会を定期的に実施する事が出来ませんでしたが、各職員が日々の業務の中で常に自立支援の意識することでご利用者のニーズに合わせたプログラムを考えられる能力を身に付けられるように努めてまいりました。

そしてその考えをリハビリ会議の中で提案し、多職種で検討することで職員のスキルアップに繋げると共に、機能訓練サービスの充実を図ってまいりました。

スキルアップを目的に個人面談を年２回実施し、職員の目標や課題を共有することでそれぞれの課題（ご利用者への気配り、チームスタッフとの連携、リーダーシップ等）に対してサポートや助言できるように努めてまいりました。

また各個人が課題としていること（移乗動作やコミュニケーション等）を事業所内研修に取り入れることで、課題を克服できやすい環境を作り、仕事に対してのモチベーション・事業所全体のサービス向上をめざしました。

③業務改善を積極的に行い、働きやすい職場環境作りに取り組みます。

実施状況

勤怠管理を意識した中で、ご利用者への質の高いサービス提供と働きやすい職場環境の両立を目指してまいりました。

残業率が高くなる送迎表・勤務表・職員の担当表の作成について、出来る限り就業時間内で行えるように、職員の動き方やタイムスケジュールを再検討

することで、前年度よりこの３つの業務に関しては残業する時間を減らす事が出来ました。

しかし全体的に見ると個人により、残業時間の差が顕著にあり、職員全員の仕事効率アップには繋がらず、今後の課題となっております。

④通所リハビリテーションの安定した経営を継続していくために、各種活動を実施してまいります

実施状況

今年度新しい取り組みとして月１回の入浴行事・集団訓練・個別ペダル訓練にVRゴーグル導入を実施しました。

これらの活動について広報紙やブログに掲載することで、居宅介護支援事業所をはじめ外部に向けて積極的にアピールを行いました。

また、新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことで、月１回の季節行事も予定通り行えました。

行事を多くのご利用者に楽しんで頂きたくために、デイルーム内に行事のお知らせを貼るなどし、他曜日からの振替利用を積極的に対応するなどしましたが、目標稼働率を達成できませんでした。

（３）居宅介護支援事業所

①ご利用者、ご家族に本当に喜ばれ、価値のある働き方を実施します。

実施状況

今年度１２月～１月に行った利用者アンケートの結果では、９割方は大変満足、やや満足の回答は得られていましたが、担当ケアマネジャーに対する苦情がありました。

半年に１回、管理者による職員面談を実施し、ケアマネジャーとしてスキルアップできるように努めました。

また、事業所としては週１回の定例会議を通じて、困難ケースや個人が抱える課題を全ケアマネジャーで共有することで対応できるように取り組みました。

②地域に信頼される事業所を目指し、諸機関と連携を深めていきます。

実施状況

地域の関連機関との信頼の形として、今年度は市内７つの地域包括支援センターから５１件、サービス事業所から６件の新規相談を頂戴することができました。

今後もより一層連携強化に努めてまいります。

また、近隣の他法人居宅との合同研修も年２回実施し、地域の高齢者虐待福祉の発展に取組んでまいりました。

【４】施設の課題

令和５年度は新型コロナウイルス感染が５類に移行されましたが、引き続き感染症対策に注力するなかで施設運営を行ってまいりました。

しかしながら、まだまだ感染症の影響は大きく、施設内でクラスターが発生するなど入所サービスである介護老人保健施設、通いの在宅サービスである通所リハビリテーションともに影響が大きく、稼働率の目標を達成することができませんでした。

また地域との交流の機会を持つことができない状況が続き、介護老人保健施設として地域に貢献できない一年となりました。

新型コロナウイルスに対する規制緩和が今後進んでいくなか、高齢者施設である我々は難しい対応が求められることになります。

ご利用者の安全と安心を担保しながら、地域包括ケアの中核を担うべき施設として、ご家族を始め地域の期待にどのように尽力してまいります。

【５】付表

（１）行事

介護老人保健施設

月	行事内容
4	誕生日会・調理レク・お花見弁当
5	誕生日会・調理レク・たこ焼き行事
6	誕生日会・調理レク・天ぷらバイキング
7	誕生日会・調理レク・ケーキバイキング
8	誕生日会・調理レク・アイスクリーム行事
9	敬老祝賀会・誕生日会・調理レク
１０	・誕生日・調理レク・お好み焼き行事・地車見学
１１	誕生日・調理レク・お寿司バイキング
１２	誕生日会・調理レク・クリスマス会
1	誕生日会・調理レク・鍋の日・元旦祭
2	誕生日会・調理レク・節分
3	誕生日会・調理レク・ケーキバイキング

通所リハビリテーション

月	行事内容
4	誕生日会・桜の会
5	誕生日会・端午の節句
6	誕生日会・おやつ行事
7	誕生日会・七夕祭
8	誕生日会・流しそうめん
9	誕生日会・敬老祝賀会
１０	誕生日会・スポーツ大会
１１	誕生日会・鍋行事
１２	誕生日会・クリスマス会
1	誕生日会・新年会
2	誕生日会・節分
3	誕生日会・ひな祭り

（２）防災訓練

月	種　別	訓練内容
6	緊急連絡訓練	緊急時、全職員への通報訓練及び緊急動員を要請する訓練
１０	消火器訓練	水消火器を使用して、火災発見から消火活動までの一連の流れを習得する訓練
１１	地震訓練	大地震を想定して、利用者の安全を確保するための訓練
3	総合訓練	夜間を想定した通報訓練・消化訓練・避難誘導訓練（消防署立会い）

（３）研修

月	研修内容
4	プライバシー・倫理・法令順守 高齢者虐待予防
5	食中毒予防研修 認知症ケア研修
6	接遇マナー研修
7	事故防止研修
8	身体拘束・高齢者虐待防止研修 感染症予防研修
9	非常災害対策研修
１０	腰痛予防研修・リスクマネジメント研修・褥瘡排泄ケア研修会
１１	接遇マナー研修
１２	BCP 訓練（感染症）
1	事故防止研修
2	褥瘡予防・感染症予防
3	身体拘束・高齢者虐待予防研修

軽費老人ホーム　ケアハウスひらおか　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

新型コロナウイルスの感染予防に日々気をつけて事業運営に取り組んでまいりましたしたが、クラスターが発生し、入居者、ご家族にはご迷惑をお掛けすることとなりました。

入居者の状況把握に職員が注力して迅速に対応を行い、短期間の入院で生活の持続ができることとなりました。

【２】　数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
ケアハウス	目標	96.0%	100%	39.0%	60.6%	8.6%	△8.2%
	実績	94.2%	98.4%	39.0%	61.0%	9.0%	△9.0%

【３】事業計画の実施状況

①入居者の健康管理

実施状況

日頃より生活状況・身体状況に注力し、在宅事業所、ケアマネ、家族に情報共有を行い、在宅サービスの依頼、体調面では早期受診を依頼し入院や他施設に移ることがなく過ごして頂くことができました。

入居時にはカンファレンスに栄養士も関わり、食事対応の把握を行いました。

②職員の意識向上

実施状況

入居申し込みをされている方・現入居者も高齢になって来ており、専門職としての知識がより一層必要になってきております。

研修担当者の退職により伝達研修を円滑に進めることができませんでした。

今後、年間研修計画と専門性持つ人材育成に取り組んでまいります。

③感染症の拡大・災害に備えてＢＣＰの策定

実施状況

新型コロナウイルスのクラスターが発症したことで、感染症ＢＣＰの見直しが必要であると考えます。

感染症ＢＣＰの入居者参加訓練を実施していきます。

【４】施設の課題

営業範囲の地域医療連携室・地域包括支援センターより入居者の紹介があり、また、直接病院からケアハウスに入居してこられるケースも増えてきており、職員

の知識・意識の向上のため人材育成が必要であります。

令和５年度は新型コロナ５類感染症になり、自治会活動参加、ボランティアの受け入れを行い、地域との繋がりを築いて拠点施設になる取り組みを行ってまいりました。

入居者にはレクレーションアンケートを実施し、ニーズに添ったレクレーションを検討してまいります。

【５】付表

（１）行事

月	行事内容
4	花見会中止・おやつ会・誕生日会
5	端午の節句（菖蒲湯）・おやつ会　・誕生日会
6	おやつ会・誕生日会
7	おやつ会・誕生日会
8	おやつ会　誕生日会
9	敬老祝賀会・勇勢師子王太鼓訪問　・誕生日会
１０	枚岡神社秋郷祭・誕生日会
１１	誕生日会
１２	クリスマス会・冬至（ゆず湯）・誕生日会
1	元旦祝賀会・七草がゆ・鏡開き・・誕生日会
2	節分祭・　誕生日会
3	ひな祭り・誕生日会

（２）防災訓練

月	種　別	訓練内容
6	総合訓練３設合同	昼間の時間帯を想定して、通報・消火・避難訓練 非常用放送設備などの確認及び使用方法を学ぶ避難訓練
6	総合訓練	入居者・職員が参加して避難訓練・消火訓練
2	通報訓練	緊急連絡網を使用した模擬通報訓練
3	ＢＣＰ訓練	自然災害を想定した３施設合同 BCP 訓練

（3）研修

月	研修内容	参加職種
4	法人理念研修・身体拘束研修・虐待防止委員会	介護員
5	身体拘束研修	介護員
6	感染症・食中毒予防対策研修	栄養士
7	事故対策研修（危険予測）	介護員
8	人権研修	介護員
9	サービスマナー研修・事故対策委員会	介護員
１０	リスクマネージメントに関する研修・身体拘束対策検討委員会	介護員
１１	身体拘束委員会・虐待防止委員会（個人情報研修）	介護員
１２	感染症委員会・感染症研修（インフルエンザ）	介護員
1	事故対策委員会・事故対策（介護事故研修）	介護員
2	身体拘束委員会・虐待防止研修	介護員
3	感染症対対策委員会・認知症ケア	介護員

軽費老人ホーム　ケアハウス喜里川　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

（１）入居者・利用者の人権尊重、利用者本位・自立支援に向けたサービス提供

人権研修、虐待防止研修等を通じて介護従事者の基本姿勢について再確認し、人権意識の向上を推進しました。また、不適切介護アンケート等を通じて職員個々の言動を振り返り、適切な声かけ、適切なケアの提供に繋げました。

（２）目標稼働率の達成及び費用の合理化・適正化による収支バランス改善

ケアハウス、デイサービスとも目標稼働率を達成できず、また、水道光熱費や人件費の高騰により、事業費、人件費の上昇が免れず、収支バランスは改善できませんでした。

（３）地域貢献活動の推進、社会福祉法人の責務

拠点設備（食堂、玄関ホール）の解放を再開し、地域サロン、パン販売、コンビニ出張販売等に活用してもらい、地域住民、施設入居者、関係機関の交流促進に繋がりました。

また、地域の防災訓練に参加したり、地域のケアマネジャーからの経済的相談に応じ、生活困窮者レスキュー事業の対応を行いました。

（４）働きやすさと充実感が得られる職場づくり

ＯＪＴ面談やストレスマネジメントを通じて、管理者や先輩職員が現場の状況を把握し、相談や対応が十分なされるよう、積極的にコミュニケーションを図り、風通しのよい職場づくりに努めました。

（５）その他

空調機器の経年劣化により１階食堂、事務所、４階、５階の更新工事を実施しました。

【２】数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠　点	目標	—	100%	51.5%	51.8%	7.2%	△10.5%
	実績	—	94.2%	52.3%	54.5%	8.1%	△14.9%
ケアハウス	目標	93.0%	100%	41.5%	59.1%	8.4%	△ 9.0%
	実績	88.4%	95.7%	40.6%	61.2%	9.3%	△11.1%
通　所	目標	56.0%	100%	89.5%	24.1%	2.6%	△16.2%
	実績	53.8%	88.5%	100.7%	27.1%	3.1%	△30.9%
短時間通所	目標	50.0%	—	—	—	—	—
	実績	23.5%	—	—	—	—	—

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【３】事業計画の実施状況

（１）ケアハウス

ケアハウスでは、①目標稼働率の達成、②入居者の処遇改善、③働きやすさと充実感が得られる職場づくりの３点を計画目標に掲げ、事業に取り組みました。

①について、目標稼働率は達成できませんでしたが、待機者リストの進捗管理、日曜・祝日の施設見学・相談体制の充実、退所後の居室修繕・清掃等の時間短縮に取り組んだ結果、入退所時のタイムラグが解消され、新規入所の受入れがスムーズとなり、年間実績で新規入所者１３名に対し退所者１０名、増減でプラス３名となりました。

また、年間延べ人数、稼働率においても、対前年度比で、それぞれ４７８名、１．７％プラスとなり前年度を上回りました。

②について、利用者満足度アンケートの結果や日々寄せられる意見・要望の内、面会制限の緩和やレクリエーション・行事活動の再開を求める声が多かったので、感染予防対策を継続しつつ、面会制限の緩和、行事等の再開に取り組み、コロナ前の状況に近づきつつあります。

また、入居者から寄せられる様々な相談に対応すべく生活相談員、介護職員による相談機能の充実、関係機関との連携強化に努めました。

③について、相談窓口の明確化、職場環境の改善を図ることで、職員が抱える問題、悩みを言い合える職場づくりに努めました。

相談窓口については、生活相談員、介護士（正職）を中心に環境改善に努め、施設長とも適宜情報共有し、問題や悩みが共有できる組織風土へ転換しました。

また、職員からのサインを見過ごさないよう、施設長もアンテナ、感度を強化し、積極的にリスク回避や悩み相談に取り組みました。

（２）地域密着型デイサービス

地域密着型デイサービスでは、①稼働率の向上、②サービスの質の向上の２点を計画目標に掲げ、事業に取り組みました。

①について、目標稼働率は達成できませんでしたが、リハサポ、センサー型重心システムによる機能訓練体制の強化、参加プログラムの見直し（口腔機能体操、デュアルタスク体操等の導入）、営業先の拡大（新規居宅、交流会等の参加）等に取り組んだ結果、多様なニーズに対応できるようになり、年間実績で新規利用者２３名に対し中止者１１名、増減でプラス１２名となりました。

年間延べ人数、稼働率においても、対前年度比でそれぞれ９３４名、１６．８％プラスとなり、前年度を大きく上回りました。

②について、興味関心シートや日々寄せられる意見・要望に基づき、活動のマンネリ化の防止、内容の見直しに取り組みました。

脳トレのプリントについては、難易度を上げることで自宅に持ち帰り再度勉強

される方が増え、体操については、デュアルタスク体操を取り入れることで、楽しい雰囲気で認知症予防ができるようになり、レクリエーションについては、ご利用者同士が協力し合い１つの物を作り上げることで、しっかりとコミュニケーションが取れるようになりました。

（３）短時間デイサービス

短時間デイサービスでは、新規利用者の獲得を計画目標に掲げ、事業に取り組みました。

地域住民や地域包括支援センターに営業活動を展開しましたが、介護予防の対象者が見つからず、新規利用者の獲得に繋がりませんでした。

また、事業の中心を担う機能訓練指導員が途中退職となり、後任を配置すべく職員採用、既存看護師の兼務配置等を試みましたが、配置の目途が立たないため９月に事業休止、１１月末に事業廃止となりました。

【４】施設の課題

（１）拠点単位での稼働率の向上

・ケアハウスの課題について、現在、新規入所者を調整する際、待機者リストの中から候補者を選定していますが、その時々で希望者が現れず、空床が続く事があります。

新規入所者をタイムリーに確保するため、老人ホーム検索サイト（有料媒体）の活用、営業確認簿の情報共有、対象エリアの拡大（東大阪市全域、大東市、八尾市）、定期的な空床情報の発信等に取り組む必要があります。

・デイサービスの課題について、リハサポの導入により稼働率は向上しましたが、新規利用者の更なる獲得に向けて、機能訓練プログラムの多様化、効果測定の重点化により、リハビリ体制の強化を図る必要があります。

その他にも利用者の様々なニーズに対応すべく、興味、関心シート等を精査し、新たなプログラム創設、遊戯設備の設置等を検討する必要があります。

（２）設備関係の修繕、更新工事

・施設内の設備関係について、ここ数年、経年劣化による故障により、修繕、更新工事が必要な箇所が増えています。

とりわけデイサービスの空調更新工事、消防設備は優先度が高く、他にも、照明器具、気中開閉器（PGS）、自動扉といった大規模な修繕、更新工事が必要となっており、今後、優先順位をつけながら計画的に対応を進める必要があります。

（３）入居者、利用者の人権の擁護

・入居者、利用者の人権の擁護、虐待の防止等の為、必要な体制整備、職員に研修を実施する必要があります。

（4）働きやすい職場づくりの推進

・ＯＪＴ、ストレスマネジメントにより、管理者や先輩職員が現場の状況を把握し、相談や対応が十分なされるよう、積極的にコミュニケーションを図り、風通しのよい職場づくりに取り組む必要があります。

【5】付表

（1）行事

ケアハウス

月	行事内容
4	花見会（屋上）、誕生日会
5	バーベキュー大会、誕生日会
6	お買い物イベント、誕生日会
7	おやつレク（さわやかゼリー）、誕生日会
8	おやつレク（かき氷）、誕生日会
9	敬老祝賀会、誕生日会
１０	喜里川秋祭り、ごちそうバイキング、誕生日会
１１	文化祭、おやつレク（焼き芋）、誕生日会
１２	クリスマス会、誕生日会
1	元旦祭、鏡開き、誕生日会
2	節分祭、おやつレク（紅茶・ワッフル）、誕生日会
3	ひな祭り、選択食、誕生日会

地域密着型デイサービス

月	行事内容
4	花見ドライブ、誕生日会
5	石切参拝、誕生日会
6	買い物イベント、誕生日会
7	夏祭り、誕生日会
8	おやつレク（かき氷）、誕生日会
9	敬老祝賀会、誕生日会
１０	買い物イベント、誕生日会
１１	文化祭、誕生日会
１２	クリスマス会、誕生日会

1	焼き芋大会、誕生日会
2	節分祭、誕生日会
3	ひな祭り、誕生日会

（2）防災訓練

月	訓練内容
5	避難訓練（昼間火災発生時の避難）
9	避難訓練（夜間火災発生時の避難）
3	緊急連絡網を使用した通報訓練

（3）研修

月	研修内容
4	認知症ケア研修
5	身体拘束廃止研修
6	感染症対策研修、ハラスメント研修
7	事故対策研修、虐待防止研修
8	虐待防止指針研修、倫理綱領研修
9	認知症ケア研修
１０	サービスマナー研修、虐待防止研修
１１	身体拘束廃止研修、アンガーマネジメント研修
１２	感染症対策研修
1	事故対策研修
2	虐待防止研修
3	BCP 研修

小規模多機能ホーム　ごりょうの家　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

地域密着型サービスとして、コロナで制限されていた地域活動は随時開催し、地域のサロンや催し、地域清掃、医療介護推進協議会等にも積極的に参加することができました。

収支の目標であった黒字化は達成する事ができませんでした。

ニーズの高い重度（要介護３以上）への対応や、短時間、長時間利用等の他のデイでは対応できない時間帯での受け入れ等は、小規模多機能、デイサービス共に積極的に受け入れることはできましたが、新規利用者数全体では少なく、目標稼働率には届きませんでした。

研修や目標管理での人材育成は、パート職員は勤務時間の調整が難しく、一部にとどまりましたが、正職員はほぼ予定通りに進めることができました。

【２】数値目標と実績

事業名		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠　点	目標	—	100%	85.0%	14.7%	13.7%	△13.4%
	実績	—	99.1%	94.7%	16.1%	14.9%	△25.7%
小多機	目標	74.0%	100%	85.6%	15.2%	14.2%	△15.0%
	実績	62.1%	100%	84.4%	15.6%	14.4%	14.4%
認知通所	目標	65.0%	100%	84.0%	13.8%	12.8%	△10.6%
	実績	55.8%	97.1%	117.0%	17.2%	16.0%	△50.2%

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

【３】事業計画の実施状況

（１）小規模多機能型居宅介護

①重度化への対応ができ、平均介護度も２．６と前年度より高くなりました。また夕食後や短時間利用等の受け入れ時間の配慮を積極的に行いました。通いに慣れるまで訪問で対応する等の受け入れ方法も工夫し、多様なニーズにも対応することができましたが、入院や入所が相次ぎ、新規獲得のペースもダウンしたことも重なり、収入目標を達成することができませんでした。

赤字の解消には引き続き努めます。

②介護支援専門員の確保については、なかなか定着できず、管理者との兼務の解消は今も至っていませんので、今後も人材確保、定着に努めます。

③科学的推進体制加算はシステム上の不備等があり、今年度での加算取得はできませんでした。来年度より加算取得行う予定です。

（２）認知症対応型通所介護

①職員体制が整わないことがあるも認知症ケア理念を指針としてＯＪＴを計画通りに実施し、人材育成に取り組んできました。
サービスの質を落とさないようにしながらご利用者に合った新しいサービスにもチャレンジしてきました。
まだ形になっていないものもありますが、ご利用者の反応などを見て、評価してを繰り返している状況です。
今後は形にしていき、当事業所の「売り」にして実績に繋げていきます。
また、職員の資質や能力、サービスの質を上げるためにもＯＪＴを計画通りに実施し、職員の意見を取り込んでいきます。

②新型コロナウィルス感染症が５類感染症となりましたが、終息することはなく不特定多数の人が集まる催し（家族会など）が開催することができませんでした。
それでも６月の行事時と１１月のやすらぎカフェ（認カフェ）時に、ご家族に参加して頂きました。
参加して頂けるご家族も予想以上に多く、職員に在宅介護されている状況を伝えて（時間が足らない程）、ご家族同士がお話されている姿を見て、来年度には「家族会」を実施して認知症の悩みや在宅介護の状況などを共有できる場を作らなくてはいけないと感じました。

③実績を増やすことを最優先しましたが、あまり効果がでませんでした。
来年度の４月より科学的推進体制加算を取得することになっています。
今後も実績を増やすことを最優先して取得できる加算は取得していきます。

【４】施設の課題

収支の安定化、特に黒字化を達成できなかったことが、一番の課題です。

ニーズの高い重度の利用者受け入れで要介護度は上がったことや、長時間の受け入れを積極的に行えたことは良かったですが、入院や入所での利用中止者を、新規利用者が上回ることができませんでした。

電話やFAXだけでなく、訪問や来所していただくなどの取り組みも積極的に行ってまいります。

また、生活機能向上連携加算や科学的介護推進体制加算の取得の他、職員の配置状況、資格状況を随時チェックし、サービス提供強化加算の取得も漏らさず取得していきます。

レクリエーションに関しては、個々のニーズ応じた物を作成したり、アンケートでも希望の多かった外出行事もコロナ前の様に多く取り入れていったり、ご利用者のニーズに応じた活動を行っていきます。

地域支援活動は、地域清掃、御領サロンへの参画、施設開放などは継続すると共

に、認知症サロンも再開していきます。

その他、運営推進会議等で地域のニーズに応じた活動も行い、地域密着型の原点でもある「地域に根差した施設」をより目指してまいります。

【５】付表

（１）年間行事

	小規模多機能	認知症対応型通所
月	行事内容	行事内容
４	花見・和菓子	花見ドライブ
５	こどもの日ゲーム＆おやつ	
６	お好み焼き＆焼きそば	室内運動会（家人様参加型）
７	七夕祭	七夕会
８	夏祭り	夏祭り
９	敬老祝賀会	敬老祝賀会
１０		
１１	秋のゲーム大会	
１２	クリスマス会	クリスマス会
１	初詣・ぜんざい	
２	節分	節分祭
３	ひな祭り	ひな祭り
該当月	○ご利用者お誕生会	○ご利用者お誕生会

※御領お楽しみサロンは５回開催

※月１回ドックセラピーを開催

※認知症対応型通所介護の空白月は昼食レクやおやつレク、集団レクリエーションなどを実施しています。

（２）防災訓練

月	種　別	訓練内容
4	防災訓練 （緊急連絡網）	非常災害時を想定した職員の緊急連絡網の訓練を行った。
5	総合訓練 （消防署員立ち合い）	緊急事態宣言の為消防署の立ち合いは中止。事業所のみで避難経路の確認、消火器の使用方法の説明などを行った。
8	消火訓練、避難訓練 （夜間帯想定）	小規模多機能（１Ｆ）の夜勤帯の火災を想定した訓練。消防隊が到着するまでの間、職員がすべき消火作業、避難誘導方法を身に付ける。
１０	防災訓練	非常災害時を想定した消火・避難・通報訓練をご利用者と職員で実施した。

（３）研修

小規模多機能・認知症対応型通所

月	研修内容
4	
5	
6	虐待防止研修
7	認知症ケア研修
8	緊急時の対応の研修 脱水症の予防対策についての研修
9	人権研修
１０	
１１	感染性胃腸炎の対応研修
１２	
1	BCP 研修
2	
3	

※上記はリモート研修か、内部・外部研修

介護老人保健施設　すいれん　令和５年度　事業報告

【１】施設運営を振り返って

令和５年度は新型コロナウィルス感染症が２類から５類へと引き下げられた事から感染症対策の見直しを行いました。

また、地域包括ケアを目的に介護老人保健施設すいれん・通所リハビリテーションすいれん・居宅介護支援事業所ケアプランセンターすいれんが共同して取り組みました。

（１）５類引き下げ後もご利用者に安心してサービスを受けて頂けるよう、６か月に１回、新型コロナウィルスがサービス利用中に発生したと想定し感染対応方法を全職員に確認する訓練を実施しました。

また、感染症委員会を中心に感染症に対する研修も開催し、今年度ノロウィルスや新型コロナウィルスに罹患された方がおられましたが、クラスターにならず終息しています。

（２）イベントの充実や職員教育を図り利用満足度を向上するよう取り組みました。

施設入所者には運動部や美術部、美容部を立ち上げ参加者からは好評となっています。

通所利用者には日々のレクリエーションの充実や行事にも力を入れ喜ばれております。

（３）NAS（施設内ファイル共有システム）をより活用できるよう、各種記録関係の電子化をすすめ、各種記録や伝達が PC を通して確認がとれるなど業務の円滑化を行いました。

（４）介護老人保健施設や通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所が連携し介護老人保健施設の在宅復帰者は、在宅後もすいれんの通所リハビリテーションや居宅介護支援事業所を利用する事で継続的な在宅生活の確保し、在宅生活が難しくなった際は再度、介護老人保健施設に入所して頂くなど、スムーズな対応を行い、一体的なケアを行いました。しかし、地域の居宅介護支援事業所からの新規利用者の獲得が出来ておらず稼働向上及び安定には繋がりませんでした。

【２】数値目標と実績　（%）

介護老人保健施設すいれん		稼働率等	収入達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠　点	目標	—	100%	60.0%	27.9%	13.5%	△1.4%
	実績	—	98.9%	58.8%	24.3%	12.2%	4.8%
老　健	目標	94.0%	100%	57.3%	29.8%	13.9%	△1.0%
	実績	89.5%	99.5%	56.1%	26.3%	12.9%	4.8%

通　所	目標	70.0%	100%	70.0%	21.0%	13.5%	△4.5%
	実績	65.8%	93.3%	67.7%	16.7%	9.6%	5.9%
居　宅	目標	1,065 件	100%	90.0%	6.9%	4.1%	△1.0%
(介護)	実績	1,072 件	100.8%	90.9%	4.7%	4.2%	0.2%
居　宅	目標	483 件	—	—	—	—	—
(予防)	実績	430 件	—	—	—	—	—

※償却費率は減価償却費から国庫補助金等特別積立金取崩額を引いた額が分子

介護老人保健施設につきましては、新型コロナウィルスの影響は殆どありませんでしたが、持病の悪化による体調不良が多く見られ、４月から９月にかけて入院者が多く稼働が低下しました。

また、１０月・１１月は入院者が減少するも在宅復帰者が集中してしまい稼働向上には至りませんでした。

１２月からは入院者も減少し、地域の医療機関からの継続的な新規入所者の紹介もあり稼働が向上しています。

年間通して新規入所者が９８名に対し持病の悪化による入院により入院者が９０名を超えた事や、上半期に稼働が著しく低下した事で下半期にも影響が大きく、稼働目標は達成出来ませんでした。

退所者の内訳では、入院者が約５８％に対し在宅復帰率が約２３％、特養等の介護施設への入所が約１９％といった形になっており、今後、入院者の減少及び居宅介護支援事業所からの新規紹介、在宅復帰者からのリピート利用が課題だと考えています。

通所リハビリテーションについては、上半期において稼働が伸び切らない状況が続きましたが、下半期以降には目標である７０％を超える月もあり、７０％に近い月もありました。

年間の延べ人数では、令和４年度が年間延べ 5513 名に対して、令和５年度が年間延べ 6102 名の方にご利用頂く事ができ、前年度比１１％増となりました。

しかし、コロナウィルス感染による利用中止や、体調不良などによる利用中止が想定以上に出たことにより、目標稼働には到達できませんでした。

今後とも目標稼働を達成できるように、休みが出ることを見越して利用予定者数の確保に努めていきます。

居宅介護支援事業所につきましては、地域包括支援センターからのご紹介を中心に各機関や本体施設からも相談を頂けるなど地域に密着した運営ができました。

計画した介護件数は達成しましたが、業務負担の改善など意識的に予防の受入れを調整したり適正な介護区分への変更を行ったりと、予防件数は未達成となっています。

令和６年度は介護報酬改定もあるため、事業所の実情、地域性を考えて適正な運営ができるように努めていきます。

【３】事業計画の実施状況

（１）施設拠点について

新型コロナウィルスが５類へと引き下げられた事で令和５年度は地域の区民活動への参加や地域貢献を実施しました。

地域貢献活動では地域の方々を施設にお招きし、介護予防体操や介護相談、各種サービスの説明会を実施いたしました。

また、各関係機関への研修会や会議への参加についてはハイブリッド型を採用されている事が多く、状況に応じて集合型にも参加しました。

（２）介護老人保健施設

①昨年に続きブログや広報誌を通して、積極的に施設内で提供するサービスを発信しました。

徐々に発信回数も増えていますが、まだまだ発信回数が少ない為、引き続き取り組んで参ります。

②施設外の研修にも徐々に参加しましたが、研修で学んだ事の周知方法が不十分であり、研修を受講した職員は知識や技術を得るものの、その他の職員への伝達研修を行う上で理解が不十分であり、研修で学んだ事を周知する体制作りが課題となっています。

施設内研修については研修動画を作成する事で空いた時間に視聴ができ、業務が多忙な中でも研修を受ける体制が構築できサービスの向上に努めました。

③記録関係の電子化を推進し、紙媒体がなくても施設内の情報共有システムを使用する事で何処でも内容を閲覧可能になり、伝達事項がスムーズに行えました。人に聞く前にデーターを見る事で業務効率が向上しました。

④すいれん在宅復帰後も、すいれんの事業所を利用する事で切れ目のないサービス提供が行え、在宅生活に支障が出た際はスムーズに再入所が行えるように対応しました。

在宅復帰をされたご家族からも好評であり、前年度に比べ在宅復帰率は２％向上しています。

⑤継続的に営業を行い、依頼があればスムーズに入所して頂けるよう地域の居宅介護支援事業所と関係性を深め、少しずつではありますが居宅介護支援事業所からの新規獲得が増えています。

⑥看取りケアの体制を勧めて参りましたが、対象となる入所者はいませんでした。引き続き看取りケアに伴う職員教育を実施していきます。

（３）通所リハビリテーション

認知機能向上システム（コグエボ）を導入し、認知機能向上に努めることができ、身体状況に合わせた運動プログラムも実施できました。

リハビリ会議やサービス担当者会議を通じてその効果を比較評価し、ご利用者

ご家族、担当ケアマネージャーへ伝えることができました。

①内部、外部研修に参加し職員のスキルアップに取り組みました。

新しく入った職員の知識、技術も向上しており、サービスの質の向上にも繋がっています。

業務内容は随時見直しを行ない、労働環境の調整や利用者様へのサービス調整を行なうことができました。

②報誌やブログを活用し、部署のイベント内容などの広報活動を行なうことができました。

居宅介護支援事業所からも随時ご紹介を頂く事ができ、下半期には単月ではありますが目標達成することもできました。しかし目標稼働の維持ができなかったので、目標稼働を達成できるように、利用予定数の確保に努めます。

③新型コロナウィルスの感染症対策を引き続き行い、ご利用前の検温、必要時検査を実施することで、コロナウィルスの持ち込みを概ね防ぐことができました。

職員の感染症に対する知識不足や対応は万全ではないので、研修や勉強会を通じて感染症対策を意識できる体制づくりに努めます。

（3）ケアプランセンター

①鶴見区を拠点に隣接市や関連機関から定期的に相談が入るなど良好な関係性が築けました。

②特定事業所加算を継続する事で各介護支援専門員の意識を保ち、定例会議の場面などで情報の共有、各事例での意見交換ができ事業所全体のスキルアップが図れました。

③介護老人保健施設と連携を図り、入所９件、退所７件の計１６件の入所相談、在宅復帰などの支援が行えました。

【４】施設の課題

職員の減少や新規職員の獲得が困難な状況です。

また、職員が減少している事により職員育成に必要な時間の確保が難しく、職員への負担も強くなっています。

そのため、人材の確保を行えるよう採用活動を積極的に行う必要があります。

職員の育成が間に合わず、運営基準等の各種法令への理解も乏しいため、役職者だけでなく中堅職員以上は自主点検表のチェックを役職者が行うのではなく、中堅職員が行うように取り組んでいきたいと考えています。

新型コロナウィルス感染症が５類へと引き下げられたが、コロナ禍により長い間閉鎖的になっていた事もあり、職員の接遇に対する意識も低下しています。

社会との関りを積極的に行い、第三者の介入を増やす事や苦情や要望に対して振り返りを行いながら、接遇の向上に努めていく予定です。

【５】付表

（１）年間行事

老人保健施設

月	行事内容
4	お花見散歩　誕生会
5	棒体操、棒サッカー 菖蒲湯　誕生会
6	ボウリング大会　誕生会
7	七夕祭り　誕生会
8	夏祭り　　誕生会
9	敬老祝賀会　誕生会
１０	運動会　誕生会
１１	紅葉の散策、体操　誕生会
１２	クリスマス会　誕生会
1	元旦祝賀会　誕生会
2	節分　誕生会
3	ひな祭り　誕生会

通所リハビリテーション

月	行事内容
4	フォトフレーム作り 誕生会
5	お茶摘み、しょうぶ湯 誕生会
6	特製おやつ祭り　誕生会 誕生会
7	七夕祭り　誕生会
8	うちわ作り　誕生会
9	敬老祝賀会　誕生会
１０	ハロウィンパーティー 誕生会
１１	サッカー祭り　誕生会
１２	忘年会　誕生会
1	お正月だるま落とし 誕生会
2	節分　誕生会
3	ひな祭り　誕生会

（２）防災訓練

月	種　別	訓練内容
5	基礎訓練	新人職員を対象とした、施設の防災機器・器具の場所及び取り扱い方法等を周知行う。
8	消火訓練 合同防災訓練	水消火器を用いた防災訓練と、火災時の対応等についての訓練を行った。
１１	夜間想定避難訓練	消防署立ち合いのもと夜間想定の消防訓練を実施。 初期消火訓練・避難誘導訓練・通報訓練を行う

（3）年間集団リハビリ

介護老人保険施設

内容：今日は何の日　　脳トレ　　手遊び　　全身体操　　深呼吸

月	実施日（参加人数）
4	5（50）・14（48）・19（40）・26（33）
5	3（40）・9（21）・10（30）・17（20）・18（18）・24（30）・25（17）・30（44）
6	7（40）・14（30）・21（39）・28（40）
7	5（29）・19（30）
8	21（30）
9	9（30）・14（20）・19（20）
10	3（30）・17（16）・18（30）・23（29）・26（8）・30（7）
11	3（17）・9（27）・14（17）・16（14）・22（27）・27（12）・30（30）
12	4（30）・6（16）・13（17）・14（26）・21（23）・22（13）・29（33）
1	8（43）・15（14）・19（28）・22（29）・24（20）・29（29）・30（18）
2	5（29）・17（14）・20（19）・21（29）・26（26）・28（27）
3	4（22）・6（35）・11（29）・12（22）・25（30）・29（17）

（4）研修

介護老人保健施設

月	施設内研修内容
4	・感染症対策研修（手指消毒・手袋装着実施研修）・新職員研修 ・高次脳機能障害の事例検討
5	・感染症対策研修（手指消毒・手袋装着実施研修） ・もしばなカードを通してのグループワーク（看取り委員会）
6	・食中毒について・事故対策予防（高齢者安全対策委員会） ・新型コロナウィルス感染症発生を想定した訓練
7	・事故対策予防（高齢者安全対策委員会）・ハラスメント研修 ・虐待防止事例研修
8	・褥瘡の基本的な理解について（褥瘡委員会） ・不適切ケアのグループワークについて（NS、CW 役職者対応）
9	・褥瘡の基本的な理解について（褥瘡委員会） ・新型コロナウィルス感染症発生を想定した訓練
１０	・認知症研修（身体拘束廃止委員会）
１１	・嘔吐処理の研修（感染症対策委員会）
１２	・嘔吐処理の研修（感染症対策委員会） ・新型コロナウィルス感染症発生を想定した訓練
1	・人権研修（高齢者虐待委員会） ・事故報告書の書き方（高齢者安全対策委員会）
2	・人権研修（高齢者虐待委員会）
3	・苦情対応研修（苦情対策委員会）・嘔吐処理の実践訓練

月	施設外研修内容
4	・事例で学ぶ成年後見人制度 ・コロナウィルス５類に移行に関する研修（つるみ ing）
5	・介護福祉士実習指導者講習会 ・認知症サポーター研修（みのわの里）
6	・鶴見区食育推進連絡調整会議　・口腔ケアの手順（たに歯科） ・介護施設における安全対策担当者養成研修 ・臨床実習指導者講習会
7	・令和５年度介護事業者等集団指導　・安全対策担当者養成研修 ・介護現場におけるハラスメントに関する職員研修 ・食品衛生講習会

8	・身体拘束ゼロ推進委員会養成研修　・看取り研修（看取り委員会）
9	・身体拘束ゼロ推進委員会養成研修 ・高齢者虐待研修～具体的事例をふまえて～（みのわの里） ・BCP 策定などに関する防災リーダー養成研修（災害編） ・感染症 BCP について　・片麻痺のある方への口腔清掃（たに歯科）
１０	・認知症の方への介護技術 ・BCP 策定などに関するアドバイザーによる個別相談会
１１	・虐待防止に向けた早期発見早期対応対策・体制整備 ・安全運転管理者講習
１２	・身体拘束から人権侵害を考える（みのわの里）
1	・第 24 回大老協懇話会　・おむつ講座
3	・支援相談員研修会　・特定給食講演会

通所リハビリテーション

月	施設内研修内容
4	・感染症対策研修（手指消毒・手袋装着実施研修）
5	・感染症対策研修（手指消毒・手袋装着実施研修）
6	・新型コロナウィルス感染症発生を想定した訓練 ・事故対策予防（高齢者安全対策委員会）
7	・介護現場におけるハラスメントに関する職員研修・虐待防止事例研修
9	・新型コロナウィルス感染症発生を想定した訓練・高齢者虐待研修
１１	・嘔吐処理の研修（感染症対策委員会）
１２	・新型コロナウィルス感染症発生を想定した訓練
1	・人権研修（高齢者虐待防止委員会） ・事故防止リスクマネジメント研修 ・事故報告書の書き方（高齢者安全対策委員会）
3	・苦情対応研修（苦情対策委員会）

月	施設外研修内容
5	・認知症サポーター養成講座
6	・認知症ケア研修
7	・口腔ケア研修
9	・高齢者虐待研修

１０	・認知症の方への介護技術
１１	・虐待防止に向けた早期発見と対応策・体制整備
１２	・高齢者虐待：身体拘束から人権侵害を考える
1	・おむつ講座　・介護レク体験会
3	・リスクマネジメント研修

居宅介護支援事業所

月	施設内研修内容
4	・高次脳機能障がいの方の具体的な対応事例（みのわの里） ・手洗い方法・使い捨て手袋の外し方（感染症対策委員会）
6	・コロナウィルス抗原定性検査の理解度確認テスト ・ハラスメント対策セミナー（オンラインセミナー） ・事故対策予防研修（高齢者安全対策委員会） ・食中毒について（給食委員会）
9	・高齢者虐待研修（みのわの里）
１０	・認知症への方への接し方について（高齢者虐待防止委員会） ・高齢者の権利擁護、虐待防止（管理統括部）
１１	・嘔吐物処理研修（感染症対策委員会）
2	・苦情の取り扱い研修（苦情対策委員会） ・人権研修（高齢者虐待防止委員会）

月	施設外研修内容
4	・鶴見区自立支援型ケアマネジメント小会議
5	・地域包括支援センターについて（大東市ケアマネ研究会）
6	・主任介護支援専門員としてスーパービジョンの実践（大東市ケアマネ研究会）・令和５年度介護事業者等集団指導（オンライン指導）
7	・『介護事業所の人材育成と職場づくり①』（オンラインセミナー） ・緩和ケア（訪問看護師による web 研修） ・介護給付費適正化事業について、個別避難計画について
8	・『介護事業所の人材育成と職場づくり②』（オンラインセミナー） ・緩和ケア　薬から考える緩和治療（オンライン研修） ・感染症予防およびまん延防止、在宅での感染対策について（大東市ケアマネ研究会）

9	・令和５年度　第１回ケマネット研修会（認知症研修） ・自立支援マネジメント検討会（大東市地域包括支援センター） ・認知症の人のケアマネジメント（大東市ケアマネ研究会）
１０	・多職種連携について（鶴見区在宅医療、介護連携相談室）
１１	・介護現場 本当の生産性の上げ方（オンラインセミナー） ・クレーム、苦情に関する総合的な施策と体制（オンラインセミナー） ・在宅医療、介護連携推進事業　講演会（鶴見区役所主催） ・第１回鶴見区介護時保険事業者連絡会（介護ハラスメント） ・第９回：24年改定に向けた居宅介護支援の論点と生残り戦略
１２	・第２回ケアマネット研修会（ケアマネジャーのコンプライアンス）
2	・令和５年度　大阪市認定調査員現任研修 ・鶴見区自立支援型ケアマネジメント小会議（リモート会議） ・総合的アセスメントを理解する（大東市ケアマネ研究会）
3	・虐待研修（ケアマネット）

サービス向上会議　令和５年度　活動報告

【１】令和５年度総括

「サービスの質の向上」「ご利用者満足」「職員の資質向上」を目的とした活動を推進するため、ご利用者の安心・満足のためのサービス提供について、各拠点のサービスが、それを担えているかどうかを検証し、定期的な効果測定、振返りを通じて、その結果を次に活かせるよう、委員会として各拠点の後方支援を行いました。

【２】検討内容

具体的な後方支援の内容は以下のとおりです。

（１）ご利用者満足度アンケート

サービス内容の見直しとご利用者の満足度を把握するため、ご利用者に満足度アンケートを実施しました。

（２）不適切介護アンケート

不適切介護根絶・組織風土改善施策の一環として、ご利用者満足度アンケートと併せて、不適切介護の統一アンケートを全ての事業で実施しました。

（３）法人スローガン

各拠点が一体となり、サービス向上に取り組めるよう、拠点ごとにスローガンを作成しました。

【３】令和６年度への課題

従来、サービス向上委員会を中心に「ご利用者満足度アンケート」「法人スローガン」「表彰・顕彰制度」「職員アンケート」に取り組んできましたが、それぞれの実施時期、内容について、年々、各拠点に定着しつつあることから、委員会としては、実施時期の呼びかけや集計作業を中心に、各拠点の後方支援を行ってきました。

次年度も、後方支援の立場から各拠点のサポートを行うと共に、サービス向上に係る課題解決について適宜組んでいきます。

また、業務改善の観点から、会議開催は適宜行うこととし、意見収集や集計作業についてはメール等を積極的に活用するなど、委員会活動の効率的な運用を目指します。

リスクマネジメント推進会議　令和５年度　活動報告

【１】令和５年度総括

（１）令和５年度については、第三者苦情解決報告会を２回開催（７月５日・１月１９日）しました。

各拠点の各事業所に頂いた苦情内容・対応内容・改善のための取組を周知し各所属事業所や職員自身に置き換えて考えてもらう機会としました。

また、各サービス利用者及びその家族が安心して生活が送れるように取り組みを行いました。

（２）新型コロナウイルス感染症対策については、年間を通じて各拠点からの感染状況、対応状況の共有を行うことで、新型コロナウイルス感染症に対する予防対策意識の継続と日頃からの感染予防対策の強化ができました。

また、感染症分類の変更時等、時勢に添った対応について、法人本部からの法人の統一した対応策の周知が行えました。

【２】検討内容・令和６年度への課題

「ヒヤリ・ハット報告書」の活用の促進については、検討を行えませんでしたが、各拠点で「ヒヤリ・ハット報告書」を有効に活用し、事故発生防止に取り組んでいます。